

人とつながる 世界とつながる

人間も社会も環境も...
あらゆるテーマがここにあります。



弘前大学
人文社会科学部

オンラインキャンパス&ガイド

Faculty of Humanities and Social Sciences Hirosaki University
Online Campus and Guide

本冊子作成のねらい 飯島 裕胤(人文社会科学部長)	02
【文化創生課程】	
巫女と戦争 ～東北における危機のフォークロア～ 山田 巖子(文化資源学コース)	03
〈日本思想史〉おぼえがき～ 究の射程とアプローチ方策～ 原 克昭(文化資源学コース)	05
60音の世界 ～ひらがなで書けない音を文字にする方法～ 新永 悠人(文化資源学コース)	07
日本古典文学を研究するということ ～能《百万》を例に～ 中野 顕正(文化資源学コース)	09
ここまでわかった! 縄文文化 上條 信彦(文化資源学コース)	11
美術史の見方で作品を読み解こう 一仏像とその作者に迫る 佐々木 あすか(文化資源学コース)	13
西洋古典古代への誘い 今井 正浩(多文化共生コース)	15
イスラームの拡大と多宗教の共生 亀谷 学(多文化共生コース)	17
『ハリー・ポッターと賢者の石』の構造を読む 畑中 杏美(多文化共生コース)	19
大学の日本史 ～日本史を学ぶということ～ 古川 祐貴(多文化共生コース)	21
【社会経営課程】	
労働経済学への招待 李 永俊(経済法律コース)	23
労働判例を読んでみよう ～採用内定ってなんだろう編～ 渋田 美羽(経済法律コース)	25
刑法の考え方 ～安楽死を素材として～ 平野 潔(経済法律コース)	27
どう変える? 裁判員制度 平野 潔(経済法律コース)	29
株式投資って、難しい? 難しくない? ～経済理論の視点～ 飯島 裕胤(経済法律コース)	31
ビジネスモデルとしてのSPA 黄 孝春(企業戦略コース)	33
アイデアの考え方 高島 克史(企業戦略コース)	35
お片づけの会計学 内藤 周子(企業戦略コース)	37
事業部制組織の成立 ～デュポンの事例から～ 林 彦櫻(企業戦略コース)	39
ソーシャル・ビジネスによる社会的課題の解決 大倉 邦夫(企業戦略コース)	41
若者の恋愛／性行動 羽淵 一代(地域行動コース)	43
ブロード・ストリートのコレラマップ ～“現代の”地図のルーツ～ 増山 篤(地域行動コース)	45
高学歴化するアフリカ! :ケニアの高卒・大卒女子の生きる道 白石 壮一郎(地域行動コース)	47
社会心理学から見る権力 日比野 愛子(地域行動コース)	49
人類学者はなぜ異文化をめざすのか 曾我 亨(地域行動コース)	51
【特定プロジェクト教育研究センター紹介】	
北日本で考古学を学ぼう ～北日本考古学研究センター～ 上條 信彦(北日本考古学研究センター、センター長) ..	53
地域未来創生センター ～「地域と共に歩む」センターをめざして～ 李 永俊(地域未来創生センター、前センター長)	55

こんにちは。人文社会科学部長の飯島 裕胤です。

人文社会科学部は、「多元的な文化理解」と「現代社会の多面的な理解」をめざす学部です。文化の視点から人間を理解する文化創生課程、社会の成り立ちから人間を考える社会経営課程の2課程のもとで、文化資源学、多文化共生、経済法律、企業戦略、地域行動の5つのコースを設けています。その淵源は1920年に創立された旧制弘前高等学校。今なお多くの若い人に読まれる作家、太宰治(津島修治)、独自の映像表現で世界的に知られる映画監督、鈴木清順(鈴木清太郎)らを輩出しています。

オンラインキャンパスは、2020年いわゆるコロナ禍を契機とした本学部の試みとして、本学部で開講している多彩な授業のダイジェスト版を学部HPに公開する取り組みです。(「弘前大学人文社会科学部 オンラインキャンパス」右のQRコード参照)



コンテンツは目次にある通りです。ご覧頂ければ、全国どこでも、私たちの専門科目を体験いただけます。

一方、本冊子は、オンラインキャンパスで示される「大学での学び」の世界をさらに広げ、学部のアドミッション・ポリシーの理解を深めることを目的とした「ガイド」です。アドミッション・ポリシーとは、「こんな学生に入学してほしい」という方針を示したもので、学部の「学問観」や「教育観」を表すものです。本学部で開講される授業はこの方針を起点に展開されていますので、「学びの原点」ともいえます。本冊子を活用して、みなさんの興味や関心が「大学での学び」の中でどのように位置づけられるのかを理解して下さい。

勉学は結果も重要ですが、「伸びしろ」が大きみなみなさんにとっては、展望する「将来の学び」に向けて、志を持ちプロセスをしっかり踏んでいることこそが重要です。安心して勉学に励み、ぜひ本学部を目指して欲しいと願っています。

アドミッション・ポリシー 人文社会科学部が求める学生像

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視したカリキュラムを提供することによって、地域文化を含む自国の文化を創造し発信する力、地域課題を含めて現代社会が直面している諸課題を発見・分析・解決する力を養い、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 人文科学と社会科学の諸領域(考古学、歴史学、文学、哲学、法学、経済学、経営学、社会学等)にかかわる専門的知識・技能を習得するための基礎学力
- 学んだ専門的知識・技能を文化の振興や社会の発展に役立てるための行動力
- 人間文化の発展に貢献することや現代社会が直面する複雑な問題を解決することへの意欲

文化創生課程

- 地域社会の発展のために、地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等の活動を担っていけるような行動力のある人
- 国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

社会経営課程

- 地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に貢献していくことができるような行動力のある人
- 少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義題目

巫女と戦争 ～東北における危機のフォークロア～

講義担当教員

山田 巖子(文化創生課程 文化資源学コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

- ▶ 国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人
- ▶ 地域社会の発展のために、地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等の活動を担っていきけるような行動力のある人

講義概要

青森県にはイタコやカミサマなどと呼ばれる民間巫者がいます。これらの人々は、明治初期には、弾圧の対象でしたが、地域社会においては必要とされる存在であり続けました。イタコはオシラサマと呼ばれる神の祭祀と関わりがあります。オシラサマの利益について津軽地方で聞き取りをすると、「火伏せ」に次いで、身代わりになってくれる、いわゆる「代受苦」の利益を答える人が多くいます。このようなことから、戦時下には「弾除け」という利益を持つようになるなど、時宜に適した役割を担うことになりました。また、民間巫者は戦中ばかりでなく戦後においても戦死者の口寄せを行いました。例えば靖国神社から「英霊」を呼び出すといった趣向には民間巫者の体制順応的な側面が読み取れます。青森県においては、戦時下、民間巫者は地域の人々になじんだ地域の信仰の回路を通じて体制馴化の方向に動いていったことが分かります。その一方で、このような口寄せは遺族の意向に合うものでもありました。戦後戦死者の供養に民間巫者が関わることは、沖縄でも見られることから、北と南の日本の周縁的な地域において、巫者たちが「戦争」を忘れさせない方向に人々を動かしてきたことに注意を向けなければなりません。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

民俗学の目的は日常意識することの少ない慣習的な行為やことばを調査することを通して、人間の生き方を深いところで決定していく集合的な文化を明らかにすることにあります。従来の歴史学では文字資料しか扱っていませんでしたが、生活の中にはことわざや昔話、民謡など、声で伝わってきたものや、仕草や技術など文字だけではうかがい知れない「知」があります。そうした庶民の生活を調べ、分析する方法を体系化したのが民俗学者の柳田國男でした。民俗学は近代以降に生まれた比較的新しい学問で、それぞれの国の近代化と深く関わってきました。たとえば、日本では明治時代、西洋文化の流入や人の往来の増加によって、地域の日常の習慣や言い伝え、芸能などが、自分の土地特有のものだったと気づくと同時に、遠く離れた場所に類似の習俗があることも知りました。柳田國男はまず郷土に住む人々が、自分たちの郷土をテキストとして読み込み、次に他所に住む人たちと交流しながら研究していくシステムを構想しました。

民俗学を学ぶ学生たちも、民俗学実習では調査地を訪ね、食べるもの、着るもの、神様の祀り方などを聞いて記録することで、他所の日常を知ると同時に、自分の育ってきた文化を振り返ります。民俗学のフィールドワークから帰った後、自分の郷里が新鮮に映ったと語る学生も少なくありません。民俗学は「現在学」といわれ、決して遠い昔の話を知る学問ではありません。自分の生まれ育った地域に光を当て



ることが、自分を知ることにつながります。民俗とは、「生きるスタイル」のことなのです。

また、民俗学の仕事の基本は「声なきものの声を聞く」ことにあると考えています。誰もが自己を自在に語ると思われている現在、誰の声が相対的に「小さい声」となっているのか、メディアにのりにくいのか、そのような声をどのような方法で聴くことが可能なのか、考えています。宮本常一のいう「忘れられた日本人」(ここでは「日本人」に限定しません)にならって、どのような人々の歴史や経験が忘れられようとしているのか、を聞きたいと考えています。その時々主流ではなくオルタナティブな道を示すことが民俗学の存在意義だと考えています。また、かつての「当たり前」が時代の変遷とともに「奇妙な」ものに見えたり、新たな意味や価値が加わることもあります。本講義の民間巫者やオシラ神もそのようなものです。同じものでもそれが乗る「文脈」の変化・今日的な意味について明らかにすることも大切です。

本学部のアドミッション・ポリシーとの関係で言えば、「地域社会の発展のために、地域の文化振興」を志すとしても、現存する地域の文化が長い歴史の変遷の中で地域の人々の間でいかなる意味合いを持ち、どのように変遷して来たのかを把握しなければなりません。「文化」を「次世代」や「異文化」に伝えるためには当該事象への深い理解と、対象地への配慮が必要であることを学ばなければなりません。

最後に、東北、そして津軽地方は民俗学の研究者にとって興味深く、研究蓄積の豊かな地域です。これまで民俗学実習では、調査地を決めて2年間その土地に通い、地域に住む人々との対話を通じて、生活文化の諸相を明らかにして来ました。実習で聞き取ったデータは最終的には当該地域の人々と民俗文化に関心を持つ人々が共有できるように、報告書として刊行しています。

調べてみよう

- みなさんのおじいさん、おばあさんから、子どもの頃から現在までのライフヒストリーを尋ねて、文字として記録してみよう。その人生にどのような「歴史」が刻まれているか、近現代の歴史と重ね合わせて考えてみよう。また、その「記憶」が話し手の「現在」にどのような影響を与えているかまとめてみよう。

推薦図書

- 重信幸彦『みんなで戦争—銃後美談と動員のフォークロア—』(青弓社、2019年)
- 宮本常一『忘れられた日本人』(岩波文庫、1984年)

講師紹介

山田巖子(Yamada Itsuko)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は民俗学。

講義題目

〈日本思想史〉おぼえがき ～研究の射程とアプローチ方策～

講義担当教員

原 克昭(文化創生課程 文化資源学コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

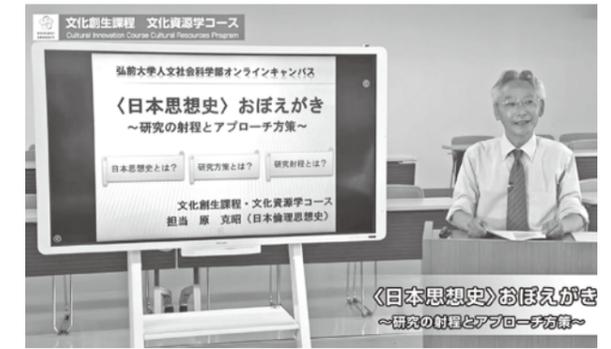
○〈日本思想史〉とは、どんな研究ジャンルですか？

「思想史」「倫理学」と聞くと、どうしても「道徳・モラル」といったイメージがつかまとうかもしれません。しかし、日本国内にある有形・無形の文化を、改めて前近代(古代～近世)から近現代にわたる〈日本思想史〉の視座から捉えなおしてみると、一概に「道徳・モラル」といった既成概念には収束しえない“日本人らしさ”がみえてきます。〈日本思想史〉研究では、基本的な思想概念をベースとして、日本の文化・歴史・文学・文芸から時代縦断・ジャンル横断しながら学術的にアプローチすることで、過去から現代を見据えた“日本人像”の再発見をめざす研究ジャンルです。

○〈日本思想史〉の研究方策は、どんなですか？

時代縦断・ジャンル横断しながら学術的にアプローチするサンプル事例として、ここでは「占い」に着目してみます。現代でも人々を惹きつけてやまない「占い」ですが、では平安時代にはどうだったのでしょうか。まずは、情報収集に相当する〈資料調査〉をします。平安時代の「占い」文化を伝える資料としては、『九条殿遺誠』のような文字資料ばかりでなく、『伝説北斗七星延命経』のような図像資料も調査対象となります。これらを相互につきあわせて読み解くことで、当時の「星占い」の様相が浮かびあがってくるわけです。一見、属星(生まれ星)をもとに占う点では現代の星座占いに似通った印象を受けるかもしれませんが、そこには現代では失われてしまった「仏教学」×「宿曜道」×「陰陽道」といったハイブリッドな思想が基盤となっています。このように、現代との位相差を見極めつつ、さらに各時代の思想環境を探究してゆくわけです。ちなみに、調査対象となる資料群は活字化された文献ばかりではありません。前近代の和本(写本・版本・古文書など)もその一環としてあります。その場合には、古典籍に関する調査方策の実習も修得することになります。

それでは、ひきつづき激動の時代にある戦国時代の「占い」にタイムスリップしてみましょう。ここに、名だたる戦国武将であった武田信玄の急逝にまつわる古文書があります。そこには「信玄の命期(寿命)は65歳であったところを、祈祷調伏したことで13年も縮めてやった」と書かれています。事の真偽はさておき、このような「占い・まじない」の営為とそこに込められた思想環境を問い質してみる必要があります。資料の収集調査を進めてゆくと、当時の「占い」ツールとして活用された『周易命期経』という資料にたどりつきます。ところが、当該資料はひたすら漢文で書かれています。そこで次に情報処理に相当する〈文献解読〉の方策が必要となります。すると、解読の結果、現在わたしたちが日常的に用いるような方程式があぶりだされてきます。さらに、こうした術数学を経て寿命を導きだす思想は何だったのかと問い質すことで、当時の「占い」が為政者に対する箴言を意図した一種の〈帝王学・政道論〉として屹立していたことがわかるのです。ここにも現代の「占い」との志向性のちがいが見え隠れしています。



講義の学問的背景・学ぶ狙い

○〈日本思想史〉研究の射程は何ですか？

〈日本思想史〉研究は、西洋哲学倫理学とは異なり、必ずしも個別の思想家による文献や発言から構築されているわけではありません。過去から現代にいたるあらゆる諸事象すべてが研究の射程となる可能性を秘めているのです。身近な時事テーマから形而上学的テーマにおよぶまで、みなさんなりに〈考える〉トレーニングを積みあげながら、

- ・日本思想史に対する文化史的視座からのアプローチ方策を修得すること
 - ・文献資料(文字・図像)をとおして思想基盤を読み解く力を涵養すること
 - ・前近代(古代～近世)と近現代の時代的位相差を見極める学術的視座を獲得すること
- をめざして、ひろく日本の文化・歴史・文学・文芸を捉え返してみたいのです。

日本の営為・叡智は、決して「伝統的・一元化・不変性」なものではありません。時代ごとの文化環境によって更新されるもの(変わりゆくもの/変わらないもの/新生するもの)のうちに、〈日本思想史〉をよみとく“カギ”がひそんでいるのです。

調べてみよう

- まずは、自分なりのテーマ探しから始めてみよう。推薦図書の『日本史リブレット』全101巻には日本文化に関わる諸テーマが集約されています。シリーズ一覧を検索して、「これは興味が湧きそう」というテーマ・時代を選び出し読んでみるどころから探究の旅を始めよう。
- それらのテーマからどのような日本人の考え方があぶりだせるでしょうか。事典やハンドブックを参考に、今の私たちと比較することで、過去から現代を見据えた“日本人像”を再発見してみよう。

推薦図書

- 『日本思想史事典』(丸善出版、2020年)
- 末木文美士『日本思想史』(岩波新書、2020年)
- 苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』(新書館、2008年)
- 『日本史リブレット』全101巻(文化史・思想史・社会史関係)(山川出版社、2001～2019年)

講師紹介

原克昭(Hara Katsuaki)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は日本思想史。

講義題目

60音の世界 ~ひらがなで書けない音を文字にする方法~

講義担当教員

新永 悠人(文化創生課程 文化資源学コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

日本語のひらがなを「50音」と言うのはなぜでしょうか？それは、5段(あ・い・う・え・お段)×10行(あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ行)で50音になるからです。

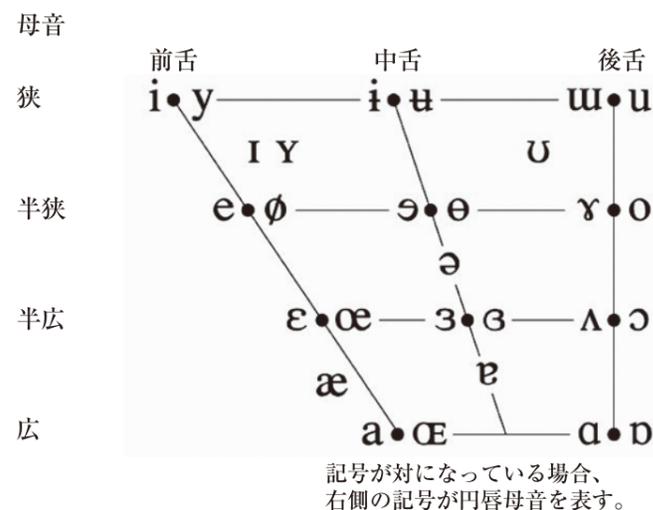
しかし、日本のある地域では「60音」の言葉が話されています。その地域の言葉には、「あ・い・う・え・お」以外の母音があります(そして、「え」の音がありません)。具体的には、「い」と「う」の間のような音が1つ、口を少し大きめに開いた「え」のような音が1つあります。残念ながら、これらの音をひらがなで書くことはできません。また、小学校で習ったローマ字でも書くことはできません。

そこで登場するのが、世界中の言語の音を書き取ることができる万能の発音記号、すなわち「国際音声字母(こくさいおんせいじぼ)」と呼ばれる記号です(英語では International Phonetic Alphabet と呼び、その頭文字をとってIPAとも呼ばれます)。以下の図が、IPAの母音の一覧表です。ここにある記号を使うと、ひらがなや従来のローマ字では書くことのできなかつた母音を正確に書くことができます。

実際に書いてみることにしましょう。以下では音声を書くときの専門的な慣習に従って、音の記号を角かっこ([])で囲むことにします。

[i] ⇨ 「い」と「う」の間のような音 [ɜ] ⇨ 口を少し大きめに開いた「え」のような音

国際音声字母の母音



さあ、これらの音は、国際音声字母の図のどこにあるのでしょうか？ [i]の音は、一番上の真ん中のところにありますね。一方、[ɜ]の音は、真ん中の少し左下にあるのが分かるでしょうか？これらの音を実際に用いた単語を紹介しましょう。[mi:]、これは「目」を表す発音です。[mɜ:]、これは「前」を表す単語です。いったい日本のどこで話されていると思いますか？ 正解は、「奄美大島(あまみおおしま)」です。ちょうど九州と沖縄本島の間にある島で、ここでは、「あ・い・う・え・お」の5母音ではなく、[a・i・i・u・ɜ・o]の6母音が使われているのです。

©International Phonetic Association (国際音声学会)
母音図の日本語訳はTaniguchi Masaki教授によるもの。
https://www.internationalphoneticassociation.org/IPAcharts/IPA_Kiel_2019_full_jpn.pdf

講義の学問的背景・学ぶ狙い

今回の講義でご紹介した「国際音声字母」は、言語学の中の一分野である「音声学」(より正確には「調音音声学」)において最も重要な知識です。

みなさんが音声言語を話すときに利用する身体部位はどこですか？それは、喉の奥から唇までと、鼻の穴までの空間ですね。専門的にはその空間を「声道(せいどう)」と呼びます。人類はみなこの声道を備



えていますので、そこから出てくる音の種類も有限です。そのため、有限の文字であるIPAを用いて、世界中の言語音を表記することができます。

調べてみよう

IPAのそれぞれの母音を実際に聞いてみましょう(以下は、国際音声字母を制定した「国際音声学会」のウェブサイトです)。聞いてみたい音をクリックして、「♪」のマークをクリックしてみてください。

国際音声学会(International Phonetic Association)の音声付きIPA一覧表
https://www.internationalphoneticassociation.org/IPAcharts/inter_chart_2018/IPA_2018.html



次は世界中の言語を比較して、それぞれの言語で母音をいくつ使用しているか調べてみましょう。推薦図書①と②が参考になります。このときに注意すべきポイントが2つあります。1つ目は短母音だけに注目することです。長母音(例:英語の[ɔ:])や二重母音(例:英語の[au])は短母音の比較が終わったあとに、もしできそうなら自分で基準を決めたうえで分類に加えてみてください。2つ目は、その言語の表記文字の種類と、実際に発音している母音の種類を区別することです。英語の表記でuと書かれるものは、実際には[ʌ](runのuの発音)だったり、[ʊ](putのuの発音)だったり、異なる発音をします。実際に発音され、意味の区別に利用される母音の種類を数えてみてください。

最後に、母音の違いに注目してみましょう。調べた言語のすべてに使用されている母音はありませんか？あるいは、たった1つの言語だけで使用されている母音はありませんか？母音の種類ごとに、その母音を使用する言語の数を数えて一覧表にすると、どの言語にも使用される「人気のある」母音と、そうではない母音の違いが見えてくると思います。なぜそのような違いが生まれるのか、考えてみましょう。

さらに言語音の魅力に迫りたい方は、ぜひ推薦図書③に挑戦してみてください。音声に関する不思議な世界をより詳しく知ることができます。

一方で「音声を使わない言語はあるのかな…？」と考えた人はいますか。それはとても鋭い質問です(「文字」はその答えではありません。なぜなら、あらゆる文字は、音声言語を書き取るためのものだからです)。もし、この答えを知りたいと思ったら、推薦図書④を読んでみてください。「目から鱗が落ちる」というのは、まさにこの本を読んで味わう経験だと思います。音声言語とはまったく別の世界を覗くことができます。

推薦図書

- ① 東京外国語大学語学研究所(編)『世界の言語ガイドブック1(ヨーロッパ・アメリカ地域)』(三省堂、1998年)
- ② 東京外国語大学語学研究所(編)『世界の言語ガイドブック2(アジア・アフリカ地域)』(三省堂、1998年)
- ③ 川原繁人『音とことばのふしぎな世界』(岩波書店、2015年)
- ④ 亀井伸孝『手話の世界を訪ねよう』(岩波書店、2009年)

講師紹介

新永悠人(Niinaga Yuto)
弘前大学人文社会科学部准教授。専門は記述言語学。

講義題目

日本古典文学を研究ということ ～能《百万》を例に～

講義担当教員

中野 顕正 (文化創生課程 文化資源学コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

今回の講義では、私が専門とする能楽の作品のひとつ《百万》を例に、古典作品へのアプローチ方法を紹介します。

《百万》は、「京都嵯峨野の清涼寺で行われていた大念仏の場で、生き別れになっていた母子が再会する」という物語で、一見素直で素朴なストーリーに見えます。しかし、この物語が書かれた当時の鑑賞者たちは、その背後に広がる様々なイメージを思い起こしつつ、作品を鑑賞していました。

初めに、舞台となった清涼寺の大念仏について。これは、鎌倉時代の導御というお坊さんが始めたイベントだと伝わっています。そこで導御の事蹟を調べてみますと、次のような伝説がありました。

導御は幼い頃に父を亡くし、貧しかった母は彼を捨てた。やがて僧となった彼は、世の人々を救おうと誓い、また母に再会したいと願って、法隆寺に籠もっていた。すると「願いを叶えるには大念仏を開催せよ」との聖徳太子の託宣があったので、彼は清涼寺で大念仏を催すのだった。

もちろん、これがどこまで史実かは問題ですが、いずれにせよ、清涼寺の大念仏を始めてくれた(=人々が仏様にすがるための機会を提供してくれた)導御の人生じたいが、母子再会の物語として語られていたと言えます。もっとも《百万》は、あくまで名もなき庶民たちの間に起こった、誰にでも起こり得る話として描かれていますから、その物語を導御の人生だけに引きつけ過ぎてはいけません。しかしそうでありつつも、「清涼寺の大念仏における母子再会」という舞台が設定されたことで、この作品の鑑賞者たちは、作品の背後に導御の奇跡的な人生を重ねて見ていたはずで、それによって、母と息子が再会するという《百万》の結末は、より奥行きのあるものとなっているのです。

さらに、こうした「母を思う子供の願い」という主題は、《百万》以外でも、清涼寺が物語の舞台となる際の重要な背景イメージとして使われていました。たとえば、次の伝説が伝わっています。

安嘉門院(邦子内親王。後堀河天皇の姉)の母は、生前功德を積んでいなかった。安嘉門院は、「母上の輪廻転生後の行き先はきっと悪い所だろう」と考え、死後様々な追善仏事を催し、また母の転生先を知りたいと願って清涼寺に度々参詣した。すると本尊の釈迦如来が託宣を下し、「汝の母は生前の行いゆえに地獄へ堕ちていたが、汝の仏事のおかげで罪が軽くなり、今は牛に生まれ変わった」と告げた。そこで安嘉門院はその牛を探し出し、清涼寺の地^{どうぎょ}で養った。やがて牛は往生を遂げ、その牛にゆかりの品が、今でも清涼寺には伝わっている。

こうした点からも、清涼寺の仏様は、母を思う子供の願いを受けとめてくれる仏として、当時理解されていたことが知られます。

以上より、一見素朴なストーリーに見えた《百万》は、実はこうした清涼寺をめぐる様々なイメージを重ね合わせることで、作られていたと言えます。作品成立当時の鑑賞者たちは、そうした清涼寺にまつわる様々なイメージを思い起こしながら、作品を鑑賞していたのです。このように、作品がかつて鑑賞者に対してどのようなイメージを呼び起こそうとし、どのような点にエモーションを感じてもらおうとしていたのかを明らかにすることで、その作品のもつメッセージ性をより生き生きと捉えること。そこにこそ、古典文学研究の神髄はあります。



講義の学問的背景・学ぶ狙い

文学研究というと、皆さんはどういったものを思い浮かべるでしょうか。含蓄のある言葉で物語の深みを語ったり、詩の美学を批評したり……と、そういった評論家的なものを想像する人が多いかもしれません。古典であっても、現代語訳さえしてしまえば内容は理解できるのだから、あとは自分の感性のままに作品の善し悪しを批評すれば良いのだ、と考えている人も多いのではないのでしょうか。

しかし、書かれた文字面を追ってゆくだけで、本当にその作品の内容を理解できたと言えるのでしょうか。考えてみて下さい。もしも作品が執筆される際に、鑑賞者に伝えたいメッセージを全て言語化して作中に書き込んだとしたら、説明的になってしまい、きっと白けてしまうでしょう。そうではなく、鑑賞者自身は何らかのイメージを思い描けるだけの余地を残し、そのためのヒントを作中に散りばめる、という形で、作品は書かれていたはずで、

ところが、古典の作品が書かれてから現在に至るまでには、余りにも長い時間が経ってしまいました。作品成立当時の人にとっては豊かなイメージを惹起するための大ヒントであった記述も、現代人にとってはよく意味の分からない、つい読み飛ばしたくなる箇所しか見えないのです。言い換えれば、その作品が書かれた時代の文化・制度・思想・常識などを丹念に調べてゆくことで、作中に登場する様々な要素がどのようなヒントとして機能していたのかを、はじめて知ることができます。そうした、作品の背後に広がる歴史的な文脈を明らかにすることで、その作品が本来もっていたメッセージ性を掘り上げること。それこそが、古典文学の研究なのです。

調べてみよう

古典作品のうち著名なものは、日本古典文学大系・新日本古典文学大系(岩波書店)、新潮日本古典集成(新潮社)、新編日本古典文学全集(小学館)などに収められ、研究の成果に基づく注釈が施されていて、その作品がいかに当時の様々な知識に裏付けられていたかが示されています。こうした所から、「作品の歴史的な文脈を明らかにする」という古典文学研究の世界を覗いてみてください。

推薦図書

小川剛生『徒然草をよみなおす』(ちくまプリマー新書、筑摩書房、2020年)

古典文学の作品として著名な『徒然草』を題材に、作品成立当時の様々な知識を踏まえることで作品がいかに豊かに読めるのかを明らかにした名著です。

講師紹介

中野顕正 (Nakano Akimasa)

弘前大学人文社会科学部助教。専門は日本古典文学。

ここまでわかった! 縄文文化

上條 信彦(文化創生課程 文化資源学コース)

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

縄文文化は、南北に長い多様な環境をもつ日本列島において、いくつもの気候変動に遭遇してきたにもかかわらず1万年以上の長い期間、ほぼ同じ範囲で同じ物質文化を維持しており、多様性がもたらす持続的な社会を目指す現在において、注目を浴びています。では、どうやって縄文人はこの長い文化を維持させるに成功したのでしょうか。自然科学との共同で分かってきた、縄文人の知恵と高度な技術、文化的な特徴について、これまで取り組んできた研究を中心に紹介したいと思います。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

考古資料を動物学や植物学の手法を用いて分析すると、縄文人の生活が分かってきます。貝塚で見つかる多数の動物の骨から、縄文人の食事は狩猟による獲物が中心というイメージが強いかもしれませんが、近年の考古学の成果によって、低湿地遺跡でトチの実やドングリの皮が山のように見つかり、石器のわずかな付着物からはデンプンも検出されています。木の実を主なエネルギー源として食べていたことがわかってきました。トチの実もドングリもアクが強くて苦いですが、水にさらしたり、焚き火の灰を使ってアク抜きをしたりしていた痕跡が見つっています。また、石器に残る細かなキズは、木の実をつぶす石臼として使った跡とみられます。木の実を日常的に食べていた縄文人は、とても高度な食品加工技術を持っていたと考えられます。縄文人は動植物の特性を理解したうえで、その利用のための技術を向上させました。単に道具を使うだけでなく、道具を改良することで、捕獲量の増加や加工の効率化、大量処理を実現させたとみられます。こうした多様な食料資源をバランスよく獲得、食料化できたことが、1万年以上にわたる長い文化基盤の一つとなったのです。

また低湿地遺跡からは、本来なら腐って残らない漆塗りの器や櫛などの装身具、植物で編んだ大小さまざまな籠も出土しています。漆は赤と黒を使い分け、きれいに彩色されています。籠は麻やイラクサなどの植物繊維をきちんと編んであり、現代にも劣らない高い技術が確立されていたことがわかります。このように、石器や土器だけでなく多様な素材や色彩を使いこなしていた点も明らかになってきました。

さらに造形美あふれる土偶や、使い勝手が悪い火焰型土器をあえて作っていたことなどから、精神的にゆとりを持って生活していたこともうかがえます。こうした物質的・精神的豊かさが得られたのは、食品加工技術が確立され、計画的に食料を調達できるようになったことが大きく関係するとみられます。

1万年以上続いた縄文時代には環境の激変期もあったでしょう。それを乗り越え、生活や文化を維持することができたのは、自然の営みにうまく適応した結果だったことが明らかになりつつあります。

調べてみよう

考古学は英語でArchaeology(アーケオロジー)といいますが、これをもじって「歩けオロジー」ともいいます。まずは、脚をつかって博物館や遺跡に出かけ、見て触って経験してみることが大事です。なぜなら、



考古学は、三次元でできたモノから、モノのなかに含まれている情報(素材とか文様とか、さらには花粉やDNAといった目に見えないレベルまで)を引き出し、そこから過去の生活や文化を明らかにしていく学問だからです。そのためには経験値ともいえる観察眼を養う必要があります。ただフィールドに出れば、インディ・ジョーンズのような世界的な発見ができるわけではありません。もちろん、過去の研究者がどのような研究をしてきたのかを調べるのは、どの学問も同じで日々文字との格闘もしています。

推薦図書

- 今井しょうこ『マンガでわかる考古遺跡発掘ワーク・マニュアル』(創元社、2021年)
- 小野 昭『ビジュアル版 考古学ガイドブック(シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊05)』(新泉社、2020年)
- 山本孝文ほか『考古学概論:初学者のための基礎理論』(ミネルヴァ書房、2022年)
- 鈴木公雄『考古学はどんな学問か』(ちくま学芸文庫、2021年)

講師紹介

上條信彦(Kamijo Nobuhiko)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は日本考古学。

講義題目

美術史の見方で作品を読み解こう —仏像とその作者に迫る

講義担当教員

佐々木 あすか(文化創生課程 文化資源学コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

○美術史とはどのような学問？

みなさんは、「美術史」と聞いてどのような内容をイメージするでしょうか？美術史では、絵画、彫刻、工芸などさまざまな作品を対象にします。その地域は日本・東洋・西洋にわたり、時代は紀元前から現代まで、つまり全世界、あらゆる時代の美術作品が対象になります。それでは美術史と、高校でも学ぶ日本史や世界史との違いは何でしょうか。日本史や世界史では、一般に古文書などの史料から歴史を読み解くことが多いのに対し、美術史では、作品そのものを調査分析することを出発点として、それに加えて、古文書などの史料を扱う点が異なります。つまり、美術史では①造形の特徴や作り方、作品のみどころなどを作品そのものから分析することと、②作者の生涯や作品がつけられた歴史的背景などを史料から分析することの2つの側面から作品への理解を深め、作品の価値を見出す点に特徴があります。特に、作品そのものを観察し、分析することは美術史ならではの特徴といえるでしょう。

○美術史の見方で作品をみよう —仏師運慶の仏像を例に

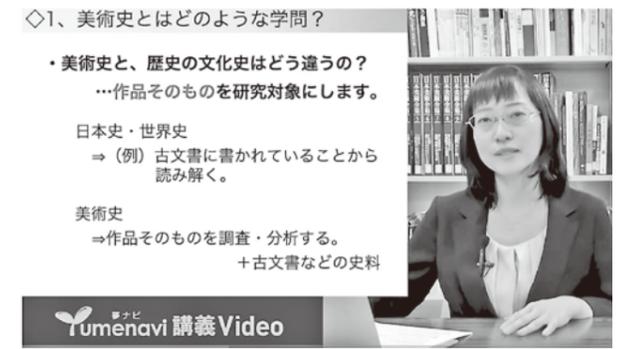
私は、日本美術史のなかでも仏像を専門にしています。特に、平安時代末期から鎌倉時代に活躍した仏師運慶とその仏像を研究してきました。この講義では、運慶の現存最古の作である円成寺大日如来像を例に、作品のどこに運慶の独自性がみられるのか考えてみたいと思います。円成寺大日如来像をみると、そこに人が座っているかのようなリアリティを感じることができます。例えば組んだ両足に注目すると、まるで実際の人を観察して彫ったかのような、足の裏のふくらみや指の丸みが丁寧に彫られています。太ももやふくらはぎのふくらみも、人間らしい肉づきで立体的にあらわされています。仏像は人間ではないのですが、あたかも人が座っているかのような実在感が、この像のみどころのひとつです。

作者である運慶の独自性を分析するためには、さらにほかの作品と比較をすることが必要になります。例えば、運慶の仏像よりも前の時代につくられた仏像と比較をしたり、運慶と同じ系統の工房に属する別の仏師がつくった仏像と比較をすることで、その相違点から運慶の独自性を探ります。これらの比較から、平安時代後期の円成寺大日如来像に比べ、運慶の円成寺大日如来像の組んだ両手の位置は高く、両手を構える腕に力強さが感じられることがわかります。また運慶と同じ系統の工房の別の仏師がつくった大日如来像との比較からは、円成寺大日如来像の背面に刻まれた服のしわは地面に接してたわむようにあらわされており、より現実的な表現であることがわかります。このように円成寺大日如来像は、人間のような現実味のある肉づきや服の表現、力強く構えた両腕などに運慶ならではの造形の工夫をみることができます。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

講義で取り上げたように、作品そのものを分析したり、ほかの作品との比較から共通点や相違点を分析し造形の特徴や作品のみどころを考察することは、美術史ならではの方法といえるでしょう。作品を細かく、さまざまな方向や視点からじっくりと観察することは、美術史の見方を学ぶ第一歩になります。

また美術史では、このほかに作者の生涯や作品がつけられた歴史的な背景を知るために、古文書など



の史料からも考察をおこないます。先ほど例にあげた運慶であれば、運慶に仏像の制作を依頼した人物として、鎌倉幕府の将軍家や御家人をあげることができます。時には歴史の教科書に出てくる人物やできごとと美術作品とが関わることもあり、美術作品を通して歴史を理解することもできます。

美術史では過去の作品を扱っていますが、美術史で学べることは単に過去の作品や制作時点での歴史だけではないと考えています。何百年も前につくられた作品には、その時その時で作品を守り伝えてきた人々が存在します。つまり作品の所有者や代々の修復技術者、信仰をしてきた人々など、つけられた時点から現在に至るまで守り伝えてきた人々の歴史を知ることにもなります。それは、作品を次の世代へ守り伝えていくことの重要性を学ぶことにもつながるでしょう。美術史を通して、作品の価値や守り伝えてきた人々の歴史を伝える方法を学んでみませんか。

調べてみよう

- 下記推薦図書や『日本美術全集』(小学館、講談社など)、『世界美術大全集』(小学館)などから作品の写真をみて、自分が好きだと思う作品をひとつ選びましょう。次に、選んだ好きな作品について、その作品をみて受けた第一印象や、好きだった理由を具体的に考えてみましょう。色がきれいだったと思った、描写に迫力が感じられた、描かれた形が特徴的だったなど具体的に探り、自分が思うその作品の魅力を自由に考えてみましょう。
- 次に、選んだ作品と同じ作者の別の作品や、同じ時代につくられた別の作者の作品を調べてみましょう。同じ作者あるいは同じ時代の作品に共通する表現の特徴があるかどうか、作品を観察してみてください。これらを通して、作品を観察することを体験する第一歩になればと思います。

推薦図書

山下裕二・高岸輝監修『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』(美術出版社、2014年)
秋山聰・田中正之監修『美術出版ライブラリー 歴史編 西洋美術史』(美術出版社、2021年)

講師紹介

佐々木あすか(Sasaki Asuka)

弘前大学人文社会科学部助教。専門は日本美術史。

西洋古典古代への誘い

今井 正浩(文化創生課程 多文化共生コース)

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

○ヨーロッパの歴史文化の源流としての西洋古典古代

1) 西洋古典学(Classical Studies)という学問について

わたくしは西洋古典学を専門としている者です。西洋古典学とは、読んで字のごとく「西洋の古典を研究する学問」のことです。もう少し具体的に説明すると、西洋古典学というのは「西洋古典古代の歴史、社会、文化等について深く掘り下げて研究する学問」ということになります。

2) 西洋古典古代(Classical Antiquity)について

この説明には「西洋古典古代」という言葉が出てきます。「西洋古典古代」という日本語は、英語では Classical Antiquity となります(むしろ、Classical Antiquity という英語に「西洋古典古代」という日本語の訳語をあてた、というほうが正解かもしれません)。Classical Antiquity の Classical は「古典の」とか「古典的」という意味の形容詞、Antiquity というのは「古代」という意味の名詞です。Classical も Antiquity も、ごく一般的な英語表現です。

ところが、この二つをつなぎ合わせて Classical Antiquity とすると、話が違ってきます。Classical Antiquity(「西洋古典古代」というのは、数千年にわたるヨーロッパの歴史のある特定の時代を指す言葉として、厳密な意味を持っています。具体的には、紀元前8世紀から紀元後5世紀までの約1300年間—現代のヨーロッパの礎(いしずえ)にあたるものが形成されていったとされる時代のことです。

この時代の始まりを代表する人物として、叙事詩人ホメロス(c.750 BC) [英語ではホーマー]がいます。この人物は、トロイア戦争を題材とした二大叙事詩『イリアス』『オデュッセイア』の作者として有名です。

この時代の終わりを代表する人物として、アウグスティヌス(354-430)がいます。アウグスティヌスはキリスト教の大思想家で、ラテン教父の一人とされている人物です。代表的な著書に『神の国』『告白録』があります。この人物は、ローマ・カトリック教会によってキリスト教の聖人とされていますので、英語では St. Augustine(「聖アウグスティヌス」と呼ばれることが多いです。

○西洋古典古代は「グローバル化の時代」

この1300年間に世界史上の大事件とも言える出来事が度々起こっています。中でも、つぎの三つの出来事は、西洋古典古代に目を向けることがなぜ重要なのかということを端的に裏付けています。

1) アレクサンドロス(アレキサンダー)大王の東方遠征

古代ギリシア文化は、紀元前5世紀から紀元前4世紀に最盛期を迎えます。ギリシア三大悲劇詩人(アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデス)や、哲学者ソクラテス、プラトン、アリストテレスの活躍した時代です。アレクサンドロス大王の東方遠征は、古代ギリシア文化を小アジア、シリア、エジプトを含む東地中海全域からインド国境にまでおよぶ広大な地域に浸透させるのに大きく貢献しました。この出来事を契機として、時代は古典期からヘレニズム期へと移っていくのです。

2) ローマの地中海地域などへの覇権の拡大



ローマは、もともとイタリア半島中部に建設された都市国家(ポリス)の一つでした。ローマは、周辺地域への影響力を強め、イタリア半島全域を支配下に収めた後、地中海地域、ブリテン島(現在のイギリス)、ヨーロッパの内陸部にまで勢力を拡大することによって、世界帝国へと発展していったわけです。

3) 世界宗教の一つとしてのキリスト教の発展

ローマの歴史における重要な出来事の一つとして、コンスタンティヌス大帝によるキリスト教の公認(313年「ミラノ勅令」と、これにつづくキリスト教の国教化(392年)をあげることができます。キリスト教は、ローマの支配下にあった地中海世界やヨーロッパの内陸部に浸透していくことで、世界宗教の一つとして大きく発展していくことになるのです。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

現代のヨーロッパ世界は、政治的・社会的・文化的観点からみて、とても複雑です。そのような状況の中で、現代のヨーロッパ世界の特徴を理解するにはどうしたらよいのか。「ヨーロッパとは何か」という問いに答えることは、とても難しいのです。

わたくしは、西洋古典古代という時代に注目し、現代にいたるヨーロッパの歴史文化の源流を探っていくという作業の中で、この問いに対する一つの明確な答えが見つかると考えています。この時代が Classical Antiquity(「西洋古典古代」という名称で呼ばれているのは、その時代の歴史文化がヨーロッパの歴史文化の礎にあたるものとして、普遍的な価値を持っているという共通認識がその前提にあるというわけです。

調べてみよう

- 古代ギリシア・ローマの文化と「ルネサンス」との関係について調べてみましょう。
- キリスト教世界の拡大は、ヨーロッパの歴史文化の発展に具体的にどのような影響を与えたのでしょうか。

推薦図書

- 高津春繁・斎藤忍随著『ギリシア・ローマ古典文学案内』(岩波書店、1963年)
- 今井正浩「古典語(古典ギリシア語・ラテン語)を学ぶということ」(弘前大学出版会編『弘前大学レクチャーコレクション』2020年)

講師紹介

今井正浩(Imai Masahiro)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は西洋古典学。

イスラームの拡大と多宗教の共生

亀谷 学(文化創生課程 多文化共生コース)

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

現在、世界には70億人以上の人が生きていますが、そのうち4分の1、約18億人がイスラーム教徒です。これは25億人に迫る信徒を持つキリスト教に次ぐ宗教人口ですが、イスラーム教徒の増加の割合はキリスト教徒を上回っており、今世紀中にはイスラーム教徒が世界で一番多くなるという予測もあります。またイスラームは、その発祥の地である中東地域を中心として、アフリカや中央アジア、東南アジアに根付いてきたほか、現代の移民によって、ヨーロッパやアメリカを含め、世界のほとんどの場所にその信徒が生活しています。

このように現代世界でも拡大を続けるイスラームですが、もともとは7世紀初めのアラビア半島でムハンマドという人物が創唱したものです。しかしそのムハンマドが活躍した場所は主にアラビア半島に限られていました。イスラームは、ムハンマドの死後に彼の後継者としてイスラームの共同体を率いたカリフたちのもとで拡大していきましたが、その過程は「イスラームの大征服」と呼ばれるもので、高校の世界史教科書にも取り上げられているように、武力を用いてイスラーム教徒の支配地域を広げていったと言われています。以前は、この征服の過程において、イスラーム教徒が征服した人々を強制的に改宗させていったとされ、それによってイスラーム教徒の数も増大していったというイメージが持たれていました。このようなイメージは、もしかすると、現代における過激なイスラーム主義者についての報道などから、皆さんの中にもあるかもしれません。

しかし実際にその当時の記録や、当時の出来事に関する資料を見ていくと、話はそう単純ではないことがわかります。少なくとも征服はすべての住民をイスラーム教徒に変えてしまうようなものではなく、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ゾロアスター教徒など、異なる宗教を信じる現地住民との共存を前提としたものであったことが窺えます。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

過去になにがあったか、過去の出来事をどのように捉えればよいのかなどについて学び、探求してゆくの歴史学という学問です。その過程で、過去の出来事を再構成したり解釈したりする作業を行います。その材料となる記録・資料を「史料」と呼びます。歴史学では、史料を基礎として、過去に起こった出来事や現象、制度などについて考察を加えていきます。

しかし単純に史料をそのまま読めば歴史的事実がすぐにわかる、というわけではありません。多くの記録は、記録を作成した人の意識的な、あるいは無意識的な思惑が反映していることが少なくありません。同じ「イスラームの大征服」という出来事について記した記録であっても、征服した側のイスラーム教徒と征服された側のキリスト教徒やユダヤ教徒では、その記述が違ったものになるのは当然のことと言えます。

それでは、どのようにすればそのようなバイアス(偏り)を越えてより正確な過去の出来事に近づくことができるのでしょうか？ 最もわかりやすい答えは、複数の、様々な由来を持つ史料を確認し、それを総合して答えを出してゆくことです。今回の講義では、征服直後のキリスト教徒が記した記録、考古学の成



果からわかった情報(正確には「史料」そのものとはいえませんが、このように他の学問分野の成果を使うことも重要です)、少し後のキリスト教徒が残した記録、そしてイスラーム教徒が伝えた文書の内容、というように、いくつかの性質の異なる史料を見比べながら、イスラームの拡大がどのような出来事であったのかについて考えてみました。そして時には矛盾することもある複数の資料から、最も「ありそうな」、言い換えるならば最も論理的に説得力のある、過去の出来事やそれについての解釈を引き出してゆくことが歴史学の王道であり、その醍醐味でもあります。

このような、複数の資料を突き合わせて事実に向かおうという手法は、必ずしも歴史学に特有のものというわけではありませんが、歴史学という学問は、史料をどう扱うか、そこからどのように事実を引き出すことができるか、という点において長い伝統を持っている学問分野です。このような手法を身につけることは、ただ過去の歴史に詳しくなるということだけではなく、現代社会の中で正確な情報を掴むためにも重要です。「フェイクニュース」という言葉もすっかり日本語として定着していますが、フェイクニュースとは言わないまでも、現代社会には互いに矛盾する情報が溢れています。現代の多文化社会においては、様々な文脈を持った情報が生み出されているため、それらを整理し、なにが最も正確な情報であるかを自ら見極めていく必要があります。あなたが本学部のアドミッション・ポリシーにあるような「深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極める」ことに意欲を持っているのであれば、弘前大学でともに歴史学を学んでみませんか？

調べてみよう

- これまでの歴史の中で、世界の様々な宗教を信仰する人々が共存した事例には、どのようなものがあるでしょうか。
- 7世紀にイスラーム教徒たちが、もともと住んでいたアラビア半島を出て西アジア地域を征服した背景には、どのような理由・要因があったのでしょうか。いくつかの理由・要因をとり上げて、それぞれがどのように関係しているか考えてみましょう。

推薦図書

- 後藤明『イスラーム世界史』(角川ソフィア文庫、2017年)
- 佐藤次高『イスラーム世界の興隆』(世界の歴史8、中公文庫、2008年)
- 小杉泰『イスラーム帝国のジハード』(興亡の世界史06、講談社、2006年)
- フレッド・マグロウ・ドナー『イスラームの誕生: 信仰者からムスリムへ』(慶應義塾大学出版会、2014年)

講師紹介

亀谷学(Kameya Manabu)
弘前大学人文社会科学部准教授。専門はユーラシア史。

講義題目

『ハリー・ポッターと賢者の石』の構造を読む

講義担当教員

畑中 杏美(文化創生課程 多文化共生コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

講義概要

1997年に出版されたJ. K. ローリングの『ハリー・ポッターと賢者の石』(以下、『賢者の石』とします)は世界的なベストセラーになりました。小説のシリーズは2007年に完結しましたが、映画作品や、テーマパークのアトラクションによっても〈ハリー・ポッター〉の世界を楽しむことができるためか、現代の日本でも〈ハリー・ポッター〉のファンは少なくはないのでしょうか。では、この作品はどのようにしてこんなに人気があるのでしょうか。講義では、『賢者の石』が描く二つの空間に注目することで、その理由について考えます。

イギリスに住む少年ハリー・ポッターは、11歳の誕生日に自分が魔法使いであることを知り、ホグワーツ魔法学校への入学許可書をもたらされます。1歳のときに両親を亡くし、親戚の家であまりよい扱いを受けずに育ったハリーは、取柄のない、主人公らしくない男の子として登場しますが、魔法の世界では知らない者がいない有名人なのです。

実はハリーは、1歳のときに悪い魔法使い(ヴォルデモート)を退散させ、そのときに両親を亡くしたのです。ひび割れた眼鏡を直す金銭的な余裕すらなかったハリーでしたが、魔法の世界の銀行には両親の遺産も保管されており、入学の準備に困ることは何もありません。しかも、ハリーは皆が怖れるヴォルデモートを、意図せず退けたヒーローであり、両親も立派な魔法使い。魔法の世界の人から「おかえりなさい」という言葉をかけてもらっていることから、ハリーの本場の居場所は魔法の世界であるということが見えてきます。

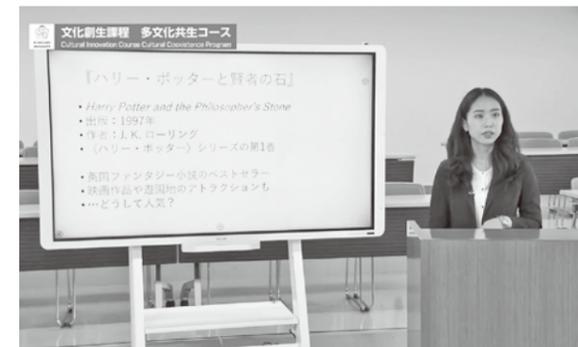
ここで疑問になってくるのは、〈現実の〉世界が必要なのかということです。『賢者の石』で〈現実の〉世界の部分を夢中になって読む人はなかなかいないでしょうし、〈現実の〉世界のハリーは魅力的な人物として描かれてはいません。皆が楽しむのはあくまでも〈魔法の〉世界での冒険です。

ですが、物語を注意深く読んでいくと、ハリーはすぐに〈魔法の〉世界のヒーローになれるわけではないのだということがわかってきます。〈魔法の〉世界に来たばかりのハリーは、自分が急に有名になったことに驚きとためらいを感じます。自分が変わったのではなく、自分のいる空間、場所のルールや基準が変わっただけで、ハリーはハリーのままであります。

〈魔法の〉世界に行ったからといって、すべてがうまくいくわけではなく、ハリーは寮の仲間に迷惑をかけたり、ときには命の危険を感じたりしながら、周りに認めてもらえるように成長をしていきます。〈現実の〉世界の自分を知っているハリーだからこそ、〈魔法の〉世界での経験を通して成長をし、〈現実の〉世界とも折り合いをつけながら生きることを学んでいくのです。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

『賢者の石』はファンタジー小説とよばれるジャンルに属する作品です。ファンタジーとは、空想的な要素を含む物語を指す言葉です。『賢者の石』でも、現実ではありえない、まさしく空想の産物というよりほかない物事がたくさん描かれています。透明になって姿を隠せるマント、星空そのものが映し出される食堂の天井など、「実際にあったらいいな」と感じるようなものだけでなく、生徒たちが実習で扱いを学ぶ魔



法生物など、実在したらちょっと困ってしまうような奇怪なものも描かれているファンタジーの世界は、私たちの生きる世界とは違うものだからこそ、価値があるもののように思われます。

一方で、イギリスで書かれたファンタジーの多くは、現実とのつながりを強く意識して書かれたものが多く、『賢者の石』も例外ではありません。たとえば、ホグワーツ魔法学校は、〈非現実的な〉ことを学ぶ場所でありながら、イギリスの寄宿学校を再現したものでもあります。生徒が所属するグリフィンドール、スリザリンなどの「寮」は原文では‘house’という言葉で書かれています。これはイギリスの寄宿学校の‘house’とよばれる縦割りの学生グループの再現なのです。寮ごとにあたえられた「得点」を得たり失ったりしながら、年齢の垣根を超えた連帯感を育むというイギリスの教育制度の在り方が見えてきます。

私たちは、しばしば現実世界を忘れて、想像の世界に没頭しようと物語を読みます。その一方で、物語を読むことは、現実の世界を違った角度から眺める一つの方法でもあるのです。ハリーは、どこで暮らし、どんな考え方をして、何をやる人なのか。遠い島国で書かれた、空想の世界の物語なのに、日本で暮らす私たちがハリー・ポッターに共感できるのはどうしてか。ハリー・ポッターが〈魔法の〉世界の住人でありながらも常に、〈現実の〉世界とのつながりを保って描かれているからこそ、私たちは彼に寄り添いながら物語を読むことができるのです。

調べてみよう

- 英国はファンタジー小説の名作を数多く産出している国のひとつです。ハリー・ポッターの物語よりも前に書かれた、英国のファンタジー小説にはどんなものがあるか、調べてみましょう。そして、ハリー・ポッターの物語とどのような点が似ているのか、どのような点が違っているのか、まとめてみましょう。
- 『ハリー・ポッターと賢者の石』において、ホグワーツ魔法学校では、ハロウィーンにはご馳走を食べ、大広間に特別な飾りつけをします。一方、ハリー・ポッターがダーズリー家と暮らしていた〈現実の〉イングランドでは、「ガイ・フォークスの焚火祭り」が出てきます。これらのお祭りの起源を調べてみましょう。そして、どうして〈魔法の〉世界ではハロウィーン、〈現実の〉世界ではガイ・フォークスの焚火祭りが出てくるのか、考えてみましょう。

推薦図書

山内史子『英国ファンタジーをめぐるロンドン散歩』(小学館、2016年)
 鶴岡真弓『ケルト 再生の思想—ハロウィンからの生命循環—』(ちくま新書、2017年)
 池上俊一『王様でたどるイギリス史』(岩波ジュニア新書、2017年)

講師紹介

畑中杏美 (Hatanaka Azumi)
弘前大学人文社会科学部准教授。専門は英文学、イギリス小説。

大学の日本史 ～日本史を学ぶということ～

古川 祐貴(文化創生課程 多文化共生コース)

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

日本史のイメージ

皆さん、これまでに一度は日本史を習ってきたことがあるかと思います。その日本史についてどのようなイメージをお持ちでしょうか？中には嫌悪感を抱く方もいらっしゃるかもしれませんね。その理由の大半は日本史＝暗記科目といったイメージが付いてしまっているからではないでしょうか。確かに日本史の教科書を見ますと、沢山の年号と沢山の太文字が出てきます。それでも先生からよく「時代の流れをつかみなさい」だとか言われているのではないのでしょうか。私も全く同じでした。しかし結局は、年号や太文字の丸暗記に終始してしまっているのではないのでしょうか。こうなると暗記が得意な人は日本史が好きになりますし、暗記が不得意な人は日本史が嫌いになる、といった構図が生まれてしまいます。日本史を研究し、大学で日本史を教える立場にいる私からすれば、それが残念でなりません。なぜなら日本史の魅力は暗記云々とは全く別のところにあるからです。

勿論私も暗記が得意で、中学・高校時代は日本史が大好きでした。その延長線で、大学に入ってから日本史に関係する授業を沢山とってきました。しかし、大学での日本史はこれまで受けてきたものとは全く異なるものでした。何が違うのか。まず決まった教科書がありません。教科書がないということは暗記すべき年号や太文字もないということです。また学期末試験も暗記した内容を問うものではありませんでした。そもそも勉強道具を持ち込んで受験してよいのですから暗記云々ではないことが分かります。では試験では何が問われたのか。――授業を聞いて考えた「歴史像」でした。「歴史像」を答えるためには、年号や太文字の丸暗記では太刀打ちができません。授業の内容は勿論、授業の中で紹介された参考文献を読み、自分なりに「歴史像」を考えておく必要があります。難しく聞こえるかもしれませんが、普通に授業を聞いていけば大丈夫なものです。暗記が要らないということであれば、日本史を不得意と思っていた方も抵抗なく受けることができるのではないのでしょうか。

江戸時代の日朝関係再開 ～対馬の「活躍」～

私は日本史の中でも近世日朝関係史と呼ばれる分野を専門としています。具体的には江戸時代の日本と朝鮮のことを扱っていますが、特に重要なのは対馬という存在です。対馬は日本と朝鮮半島との間に位置する離島で、現在では長崎県に属しています。島の90%以上が山地で覆われ、農業生産物に乏しいといった事情から、古くから朝鮮半島との貿易で生計を立ててきました。今でこそ過疎化・高齢化が進行する田舎の島ですが、明治時代以前においては、進んだ文化や技術、最新の情報が入ってくる「最前線」の島でした。対馬はこの「最前線」において、日朝外交と日朝貿易を担ってきたのです。

しかし、「最前線」であるということは必ずしもよいことばかりではありません。たとえば、16世紀末期に豊臣秀吉が起こした朝鮮侵略。対馬は朝鮮との貿易で成り立ってきたにもかかわらず、このときばかりは秀吉の命令に従って朝鮮を攻撃せざるを得ませんでした。当然日朝間の国交は断絶し、朝鮮との貿易関係もなくなってしまいます。これは対馬にとって大ピンチ以外の何物でもありません。朝鮮侵略は秀吉の死によって終わりを迎えますが、次に政権を担ったのは徳川家康です。彼は積極的に外交を展開し、朝鮮との国交回復も視野に入れていました。しかし、家康自身が直接朝鮮との交渉に臨むわけではありませ



ん。またしても「最前線」にいた対馬の登場です。家康の指示に従って対馬は朝鮮との交渉に臨みますが、朝鮮側の警戒心は強く、そう簡単に国交回復というわけにはいきません。早くしないと島の存亡に関わってしまう――対馬はこのように焦ったことでしょう。

対馬はここで大胆な行動をとります。〈偽物〉の家康の国書を作り、それを〈偽物〉の家康使節に持たせて交渉する、といったものです。家康という存在を全面的に出すことで、交渉を有利に進めようとしたものと考えられます。朝鮮側も国書と使節が〈偽物〉であることに気が付いていましたが、激論の末、朝鮮国王が国交回復を決意いたします。その象徴として日本へ朝鮮通信使が派遣されることになりました。しかし、この通信使は〈偽物〉の家康国書に対する返信を持ってきていたので、これがそのまま幕府に伝わってしまうと対馬が〈偽物〉を送ったことがバレてしまいます。そこで対馬は通信使が持ってきた返信すらも〈偽物〉にすり替える、といった行動をとったのでした。結果、通信使の来日イベントは無事に終了し、日朝間の国交が回復いたします。江戸時代の日朝関係はかくも奇妙なカタチで再開していたのでした。

まとめ

以上のように日本史には嘘のような本当の話が沢山出てきます。教科書にも載せて欲しいところですが、様々な制約があって載せられるには至っていません。こんなにも面白いドラマが潜んでいるにもかかわらず、です。何だか勿体ないと思いませんか？「大学の日本史」ではまさに教科書に出てこないような歴史的な事象を扱っていきます。皆さんがこれまでに習ってきた日本史とは全く異なるものです。何度も言いますが、ここに年号や太文字の丸暗記は必要ありません。話を聞いて、自分なりの「歴史像」をたくましくしていく作業が必要です。ぜひこれまでとは違う日本史を体験していただき、歴史の奥深さ、人間ドラマに感動して欲しいと思います。皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

調べてみよう

- 〈偽物〉を使った対馬の戦術はその後どうなったのでしょうか。
- 対馬はいつから〈偽物〉を使っていたのでしょうか。

推薦図書

田代和生『書き替えられた国書―徳川・朝鮮外交の舞台裏―』(中央公論社、1983年)
橋本雄『偽りの外交使節―室町時代の日朝関係―』(吉川弘文館、2012年)

講師紹介

古川祐貴(Furukawa Yuki)
弘前大学人文社会科学部助教。専門は日本近世史。

労働経済学への招待

李 永俊(社会経営課程 経済法律コース)

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

○経済学はどんな学問ですか？

「経済学」についてどんなイメージをお持ちですか。需要や供給、好況・不況など耳慣れない言葉が多かったり、図表が多く出てきて、苦手だと思える人も多いのではないのでしょうか。皆さんが高校の政治・経済で学んだ経済学を少し別の角度で紹介してみたいと思います。経済学を表す言葉に「選択(choices)の学問である」という表現があります。専門用語で言い換えると、我々が持っている資源には限りがあるので、限られている資源をどう配分するかを考える学問である(希少性)と言います。簡単な例に置き換えると、財布に500円しかない時に、お昼、何食べようかを考えるシチュエーションも立派な経済学です。もし、メニューが、冷やし中華とカツカレーだとしたら、今皆さんはなにを食べたいですか。もちろん、両方価格は500円です。限られた資源500円で最大の満足を得るように皆さんは選択することを考えると思います。もし、店の店長が、冷やし中華にはソフトクリームをサービスにつけるとどうなりますか。恐らく多くの学生が冷やし中華を選択すると思います。冷やし中華を多く仕入れた店長はみんなの選択行動を観察し、サービスを追加することで店にとって好ましい方向にみんなの選択行動を誘導したのです。このようにみんなの選択行動を観察し、社会全体にとって好ましい方向に誘導することを考えるのが経済学であると言えます。

○人生は選択の連続

これから皆さんは、重要な選択を強いられることとなります。就職か進学か、働くか働かないか、県内か県外か、結婚するか否か、子どもを持つか否かなどなど。人生は日々、選択の連続であります。その時、皆さんはどのように考えますか。経済学は、その考え方を多くの先人たちの選択行動の結果から学び、検証し、理論化し、我々に選択の知恵を伝えています。

○進学すべきかどうか

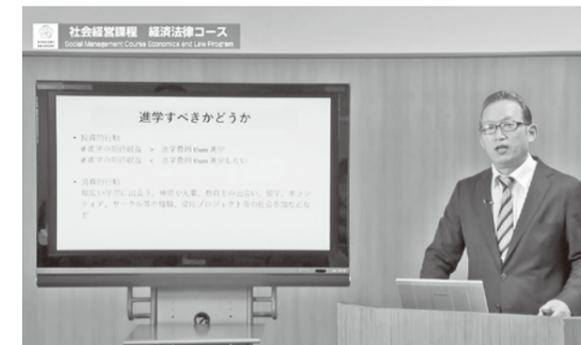
ここでは進学すべきかどうかを経済学ではどのように捉えているのか紹介します。進学行動を経済学では、投資的行動と消費的行動として捉えています。投資的行動としては、進学に伴う期待収益が進学費用を上回れば進学する、その逆であれば進学しないことが望ましいと判断しています。消費行動としては、幅広い学問に出会うことや、仲間や先輩、教員と出会うこと、留学、ボランティア、サークル等の経験をエンジョイすることにあります。進学に伴う費用とそれらの消費行動から得られる満足度を比較して、費用が大きければ進学しない、満足度が大きければ進学するという選択行動です。現在のデータに基づいて計算してみると、進学に伴う純利益は5124万円に上ります。また、消費行動は皆さんがいかに主体的に大学生活を営むかに依存しています。

○選択の結果：取り返すことが出来ない人生

選択の結果は、必ず我々の生活に現れます。人生における選択行動の結果は老後に日々の選択行動の積み重ねとして結果が現れます。進学や働き方の選択の結果によっては、老後に経済的に困窮する場合があります。そのことに気づいた時にはもう遅いのです。

○地域社会の諸課題

人口減少、格差拡大、貧困、環境問題、感染症、災害対応、復興政策、男女間格差、外国人労働者問題、早期離職、人材不足、技術継承などの地域社会が直面している諸課題は、地域を構成する人々の



日々の選択行動の結果であります。ぜひ弘前大学人文社会科学部と一緒に地域のみなさんの日々の選択行動を観察し、諸課題を分析・解決する力を養いませんか。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

○学問的背景

労働経済学は、応用経済学の一分野で、賃金や労働時間など非常に身近な題材を分析対象としており、経済学を日常の暮らしの中で理解する科目であります。そのため、別名で暮らしの経済学とも呼ばれています。大学在学中にアルバイトを選ぶ時や卒業後に直面する就業選択などの場面で大いに役立つ学問であります。

○学ぶ狙い

少子高齢化、貧困、格差拡大、環境問題など、地域社会が直面しているさまざまな課題は地域社会の構成員である我々の日々の選択行動の結果であります。地域社会が直面している諸課題の解決のカギは日々の選択行動にあります。

- ・周りの人々の行動を注意深く観察すること。
- ・暮らしの中で直面する諸問題への好奇心を高めること
- ・経済学の理論を身近に存在する問題で応用すること

調べてみよう

- 身近な選択問題をあげ、その問題が経済学の問題であるか考えてみよう。
- 講義で紹介した進学行動について、皆さんが住んでいる都道府県から年間どの程度の高校生が進学あるいは就職を選んでいるのか調べてみよう。
- 進学や就職を選択する若者たちは、どこに進学または就職しているのか、その理由は何か、自分の周りの親せきや知人の例で調べてみよう。

推薦図書

- 太田聰一・橘木俊詔『労働経済学入門』(有斐閣、2012年)
- 大竹文雄『行動経済学の使い方』(岩波新書、2019年)
- 石黒・李・杉浦・山口『「東京」に出る若者たち—仕事・社会関係・地域間格差』(ミネルヴァ書房、2012年)
- 李永俊・飯島裕胤編著『人口80万人時代の青森を生きる—経済学者からのメッセージ』(弘前大学出版会、2019年)

講師紹介

李永俊(LEE Young-Jun)
弘前大学人文社会科学部教授。
弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長。専門は労働経済学。

講義題目

労働判例を読んでみよう ～採用内定ってなんだろう編～

講義担当教員

渋田 美羽(社会経営課程 経済法律コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

- ▶ 地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に貢献していくことができるような行動力のある人
- ▶ 少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

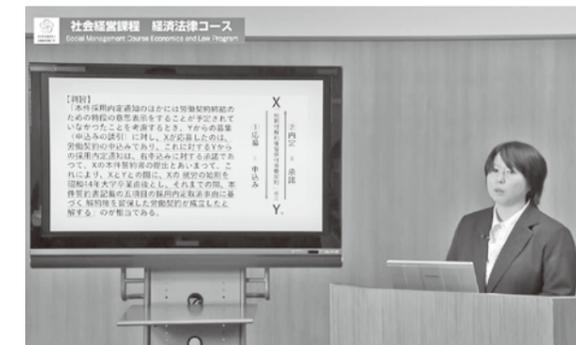
講義概要

10月に入ると大企業で採用内定式が開催されたというニュースを目にすることがあるでしょう。採用内定について、なんとなくのイメージを持っている方は多いでしょうが、では、採用内定というのは、何なのでしょう？労働契約(働いて賃金を得る契約)との関係で、採用内定はどんな位置づけなのでしょう？法律をみればわかる？いえ、実は、採用内定について、労働法(労働基準法や労働契約法、労働組合法等)に定めはありません。では、何を見ればよいのか？ということで、この講義では、採用内定に関しての重要な判例(大日本印刷事件・最高裁判所 第二小法廷 昭和54年7月20日判決)を読みます。この事件は、採用内定を取り消された新卒者が、それが無効であるということ争ったものです。

最高裁は、採用内定というものをいかなるものとして見るかを見ることができると判断したうえで、その取消しの可否を判断しています。一般に、契約の成立は、契約締結の申込みと承諾によります(民法522条1項)。最高裁は、就活中の学生からの応募が「申込み」であり、それに対する使用者からの採用内定が「承諾」であるとし、採用内定をもって、契約が成立したとみることができるとの判断を下しました。労働契約が成立している場合、企業は、簡単にはその労働者をやめさせることはできません(労働契約法16条)、それが、採用内定時にもあてはまるということが示されたわけです。ただし、この採用内定の段階で成立するのは、「始期付」「解約権留保付」労働契約であるということも示されています。したがって、労働者は、始期が到来するまで(一般には大学卒業まで)は働きません。そして、使用者は、留保された解約権を行使して内定を取り消すことも可能です。今回の事案では、暗いイメージがあったから採用内定を取り消したのだということが主張されていました。解約権が留保されているとはいえ、どんな理由であっても内定を取り消せるわけではなく、解雇の場合と同じように、その濫用は認められません。結論として、暗いイメージがあったという理由での内定取消しは無効であると判断されました。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

皆さんは法学を学ぶことについてどんなイメージを持っているのでしょうか。分厚い六法全書を読んで覚えること？それも資格試験を受けるような場合には大事なことでしょう。しかし、それだけではありません。どう条文を読み解いて、実際上の法的な問題をどう解決するのか、それを学ぶことも法学です。その実際上の問題を解決したものの積み重ね＝裁判所の判断の積み重ね、これが判例です。今回学習した採用内定のように、何もかもが条文に書かれているわけではありませんので、この判例を読み解くことも、法学(特に労働法)の研究・学習においては、大変重要であります。そこで、今回は条文を参照しながら判例を



読むこと・読み解くことに一緒に挑戦しました。日々、様々な労働問題が報じられていますが、そういった問題の中に法的な争点を見出し、それをいかにして解決していくのか、そういったことを条文や判例を読み解きながら考えていく力を身につけてほしいと思います。そのような力は、学習の上で重要であるだけでなく、実際に社会に出て働くときに、自身や周りの大切な人を守るための大事な力でもあるのです。

調べてみよう

- 採用内定によって、労働契約が成立したと見ることができるということは、内定の期間中に、課題を出されたり、研修への参加を求められたりした場合、内定者はこれらの指示に従わなければならないのでしょうか？従わなかった場合に内定を取り消されてもしょうがないのでしょうか？
- 内定が出される前に、内々定が出されるケースも多いですが、内々定も内定と同じように見ることができのでしょうか？
- 【発展】採用内定について、電電公社近畿電通局事件(最高裁判所 第二小法廷 昭和55年5月30日判決)では、内定取消しが有効と判断されました。最高裁判所のwebサイト(<https://www.courts.go.jp/index.html>)では、最高裁判所が過去に下した判決を裁判年月日等から検索し、判決の全文を入手することができます。この電電公社近畿電通局事件について、その全文を入手し、今回学習した大日本印刷事件と比べてみましょう。

推薦図書

- 水町勇一郎『労働法入門 新版』(岩波新書、2019年)
- 道幸哲也、加藤智章、國武英生『18歳から考えるワークルール(第2版)』(法律文化社、2018年)

講師紹介

渋田美羽 (Shibuta Miu)
弘前大学人文社会科学部助教。専門は労働法。

講義題目

刑法の考え方 ～安楽死を素材として～

講義担当教員

平野 潔(社会経営課程 経済法律コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

刑法は、犯罪と刑罰の関係を定める法です。高校の教科書などでも取り上げられている安楽死ですが、刑法上は、「死期が迫っていて耐えがたい肉体的苦痛にさいなまれている者の肉体的苦痛を緩和・除去して安らかに死を迎えさせること」を言います。安楽死は、刑法では4つに分けられます。「本来的安楽死(純粋安楽死)」「間接的安楽死」「消極的安楽死」「積極的安楽死」です。この中で、刑法上もっとも問題となるのは「積極的安楽死」です。他の安楽死は、治療の一環あるいは延長線上にある行為なのに対して、積極的安楽死の場合、積極的に生命を奪うことになるため問題が大きいのです。例えば、「息子であるAは、その父Xが、脳溢血で倒れて全身不随となり、少しでも動かすと激痛を訴え、『早く死にたい』『殺してくれ』などと叫ぶようになった姿を見て、子として堪えられない気持ちになった。さらに、医師から『おそらくはあと7日か、よくもって10日だろう』と言われたため、Xの願いを叶えることが父親に対する最後の親孝行であると考えようになり、Xを殺すしようと決意して、有機燐殺虫剤を牛乳に混入して、これをXに飲ませたため、Xは死亡した。」という事例の場合、Aに犯罪は成立するのでしょうか？

この問題を考える手がかりとなる2つの条文を見てみましょう。まず「殺人罪」を規定した199条の条文は、「人を殺した者は、死刑又は無期若しくは5年以上の懲役に処する。」と規定しています。次に「自殺関与罪・同意殺人罪」を規定した202条の条文には、「人を教唆し若しくは幫助して自殺させ、又は人をその囑託を受け若しくはその承諾を得て殺した者は、6月以上7年以下の懲役又は禁錮に処する。」と書かれています。199条は、言わば本人の同意なしに人を殺した場合について書いてあるのに対して、202条後段の同意殺人は、本人の同意を得て人を殺した場合について書いています。つまり、日本の刑法上は、たとえ本人の同意を得たとしても、人の生命を奪ってはならないこととなります。そうすると積極的安楽死も、通常は犯罪が成立することになります。

この点については、一定の条件が揃った場合には、犯罪にならないという考え方があります。この考え方は大きく2つに分けられます。まずは、積極的安楽死を適法な行為と考え、適法な行為である以上、犯罪にはならないと考える立場(これを「違法性阻却事由説」と言います)です。これに対して、積極的安楽死は違法な行為であるとしたうえで、行為者を非難できないような場合には犯罪にならないとする立場(これは「責任阻却事由説」と言われます)もあります。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

法学は、どのような規定があるかが出発点になります。今回の講義で言えば、まずは刑法199条や202条の条文を前提に議論を進める必要があります。確かに「死にたいと思っている人には死ぬ権利を認め



るべきである」という意見はありますが、まずは現在の刑法ではどのようになるのかを考える必要があります。規定を無視して議論を進める訳にはいきません。

法学というと、「条文の丸暗記」「答えは決まっている」と思われてしまうことが多いのですが、実はいろいろな考え方ができます。いろいろな考え方ができる分、重要なのはそのように考える根拠です。法学は「説得の学問」と言われますが、まさに相手を説得できるような根拠を示すことが重要なのです。今回の講義では2つの考え方を簡単に紹介しましたが、それぞれの考え方にはいろいろな根拠がありますし、これ以外にも考え方はあります。

調べてみよう

- どのような国が積極的安楽死を合法化しているでしょうか？また、それらの国々では、どのような場合に、積極的安楽死が合法化されているでしょうか？調べてみましょう。
- 積極的安楽死は、許されるべきでしょうか？本人の立場、医師の立場、家族の立場など、様々な立場から考えてみましょう。また、法学だけでなく、他の分野ではどのような意見があるのかも調べてみましょう。

推薦図書

- 山口厚『刑法入門』(岩波新書、2008年)
- 三井美奈『安楽死のできる国』(新潮新書、2003年)
- 松田純『安楽死・尊厳死の現在』(中公新書、2018年)

講師紹介

平野潔(Hirano Kiyoshi)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は刑法。

どう変える？ 裁判員制度

平野 潔(社会経営課程 経済法律コース)

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

裁判員制度は、2004年に「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が成立し、その後準備期間を経て、2009年にスタートしました。裁判員制度がスタートしてからは、職業裁判官3名に一般市民の中から選ばれた6名の裁判員が加わって刑事裁判が行われています。なぜ、この制度が導入されたのでしょうか？ 裁判員法1条には、その目的として、「裁判を身近で分かりやすいものにする」「司法に対する国民の信頼を向上させる」と書かれています。

裁判員制度は、スタートしてからまったく変わっていない訳ではなく、改正も行われています。1つは、長期審理事件の除外です。余りにも長い事件に関しては、裁判官のみで裁判ができるようになりました。ただ、この法改正の後も裁判官のみの裁判は一度もありません。もう1つは、東日本大震災や毎年のように起こる災害等に関するものです。今は、大規模な災害が起きた場合には、呼出状を送らなくてもよくなりましたし、災害からの復旧で忙しい場合が辞退事由に含まれました。

少しずつ不具合を修正しながら裁判員制度が運用されてきましたが、まだまだ課題は残っています。この制度をより良くしていくために大事な視点は、国民が裁判に参加しやすくすることです。そのために、裁判員裁判のことを一番よく知っている裁判員経験者の声を反映することが重要です。

裁判員経験者の声を拾っていくと、裁判員制度にはまだまだ様々な問題があり、改善の余地があることが分かります。そのうち2つだけ紹介します。

まずは、「弁護士さんが判決の日に欠席しました。JRも使えますが、吹雪で止まったりすると車を使うこととなります。車も危ないわけですね。そういう思いをしてまで参加する必要があるのかということが周りからも出ていましたので、参加する人の負担を少し考えていただいてもいいのかなと思いました。」という雪国の裁判員経験者の声です。これは、雪に限ったことではなく、例えば、雨や風などの気象条件は、日本の中でも大分違ってきます。その点がどこまで考慮されて制度設計がなされているのかは、考える必要があります。気象条件だけでなく、例えば、公共交通機関に関しても、大都市圏と地方とを比較した場合、大分違いがあります。地方の状況を踏まえながら、少しずつ制度のあり方を考えていく必要があるだろうと思います。

次に、「会社には裁判員としての休暇に関する規定がなく、有給休暇を取らざるを得なかったため、制度がスムーズに運営できるよう、もっと国が啓蒙や指導に力をいれてもらいたいと感じました。」という意見もありました。この点は、地方裁判所の意見交換会でもかなり多くの方から意見が出されていた問題です。裁判員は普段は他の仕事をされている方が大半になります。その職場から理解を得られないと、裁判員をやる人が少なくなり、制度が立ち行かなくなる可能性もあります。職場の理解を得られるように方策を強化していく必要があると思います。

現在、私が研究している内容は、前に紹介した長期にわたる裁判や災害時の対応に比べれば大きな問題ではないのかもしれませんが、この制度が維持できるかどうかは、国民の参加に掛かっていると思いま

INDEX

1. 法学ってどんな学問？
2. 裁判員制度ってどんな制度？
3. 国民が参加しやすい裁判員制度とは？

裁判員 講義 Video

3. 国民が参加しやすい裁判員制度とは？

裁判員経験者の声から分かったこと②

「会社には裁判員としての休暇に関する規定がなく、有給休暇を取らざるを得なかったため、制度がスムーズに運営できるよう、もっと国が啓蒙や指導に力をいれてもらいたいと感じました。」

>職場の理解が得られるような方策を強化する必要がある。

裁判員に選ばれた方というのは

裁判員 講義 Video

す。国民が参加しやすい制度にするためには、この小さな問題を一つ一つ解決していく必要があるだろうと考えています。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

裁判員制度に関しては、まだまだたくさん解決すべき課題が残されています。裁判員制度が、「裁判を身近で分かりやすいものにする」「司法に対する国民の信頼を向上させる」ために作られた制度であるとすれば、国民が身近に感じたり、信頼したりするには、国民が参加しやすい制度にしていかなければなりません。そして、国民が参加しやすい制度を作るためには、裁判員を経験した経験者の声を聞くことが重要です。

この講義のタイトルは、「どう変わる？」ではなく「どう変える？」にしています。誰かが変えるのを「どう変わるだろう？」という受け身の姿勢で見るとは、自分たちで制度を「どう変えていけば良いだろう？」という積極的な意味で考えてみて欲しいと思います。制度の在り方を考えるのは、まずどのような制度なのか、運用がどうなっているのかを正確に把握することが必要です。

もちろん、裁判員制度に関しては反対の意見を持っている人もいます。反対でも賛成でも構わないので、まずは自分の問題として捉え、なぜダメなのかなぜ良いのかの理由付けを考えてみてください。

調べてみよう

○国民が司法に参加する形態としては、陪審制度、参審制度などがあります。日本の裁判員制度とどこが違うのかを調べてみましょう。

○各地方裁判所のホームページには、「裁判員経験者の意見交換会」の概要が掲載されています。裁判員経験者が、裁判を通じてどのようなことを考えたのかを調べてみましょう。

推薦図書

木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(星海社新書、2012年)

原田國男『裁判の非情と人情』(岩波新書、2017年)

飯考行『裁判員ラウンジ』あなたも明日は裁判員!?(日本評論社、2019年)

講師紹介

平野 潔(Hirano Kiyoshi)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は刑法。

講義題目

株式投資って、難しい? 難しくない? ~経済理論の視点~

講義担当教員

飯島 裕胤(社会経営課程 経済法律コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

「人生100年時代」の生涯を豊かなものにするには、株式投資が有効な手段の一つになります。ここでは、株式投資の最も基本となる考え方である「分散投資」についてお話しします。

株式投資には特別な知識や能力が必要でしょうか。以下、一緒に考えてみましょう。

○長期投資と短期投資

株式は、会社利益の分配(「配当」といいます)を受けることのできる証券です。ここで長期投資は、基本的に配当によって収益をあげる考え方です。短期投資は、割安(割高)な「掘り出し物」を探して、値上がり(値下がり)によって収益をあげる考え方です。

○短期投資は難しい

経済ニュースを追って行けば、株価が値上がりする会社を見出せる、と思うかもしれませんが、話はそう単純ではありません。次の問いを考えてみます。

問:世界的農業輸出国であるR国、U国の(R国の侵攻による)紛争によって農産物価格が上昇しており、結果的に農業系の会社の利益・配当が今後数年間上昇する(その後は以前の水準に戻る)ことが見込まれています。このとき、現在から今後数年間の農業系株価の動きは、どうなりますか?

- ①現在から数年間、次第に上昇していく。
- ②現在株価が上がって、その後数年間は横ばい。
- ③現在から数年間、次第に下落していく。

他の条件に変化がないとすれば、③が正解です。意外ですよね。

理論的な理由は動画で説明していますので、ここでは直観的に述べます。高配当が見込めるのが現在から数年間ということは、時間が進行して年を経るごとに、高配当を享受できる期間が短くなっていくことです。そこで値下がりしていくのです。

この例はやや特殊ですが、一般に、株価の値上がりを見込める会社を見つけることは容易ではありません。ここで「掘り出し物」戦略はやめて、長期投資の戦略を考えてみましょう。

○分散投資の理論

将来の株価の動きを見通すことはできない(つまり確率的である)と考えれば、長期株式投資の基本原理は、実はとても簡単です。「分散投資をなさい。そうすればリスクを減らしつつ、長期的に預金より高い収益率を期待できます」というものです。

分散投資とは、ある金額(例:100万円)を投資するときに、投資金額をさまざまな会社に分けて投資することです。これにより、たとえばA社の株価下落時に、B社の株価上昇で損失をおさえる可能性が期待でき(逆に大きな利益の可能性も減ります)、リスクを減らすことができます。動画では、株価の動きをコイン投げの結果にたとえて、詳細に説明しています。

○残されたリスクとリスクプレミアム

ただし、コイン投げと株式投資は、本質的に異なる側面があります。一つは、景気の要因によって株式



投資の結果には会社間の「相関」があるために、リスクの軽減には限界があるという事実です。もう一つは、株式投資をスタートするために必要な金額(=スタート時の株価ですね)が、投資家の需要と供給によって変化するという事実です。

分散投資を行っても残されたリスクがあるのなら、人は、他を一定として株式投資を預金より敬遠します。それでも人が株式投資をするのは、需要低下によってスタート時の株価が低下し、それによって高い収益率(「リスクプレミアム」といいます)が見込まれるからです。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

長期投資から見込まれるリスクプレミアムは、慎重に見積もるなら、年1~2%程度です。短期投資が結果的に上手くいったときの収益率を、大幅に下回ります。なので、経済学者はともかく、一般の投資家にはあまり省みられませんでした。

ところが近年、SNSなどを見ても、若者を中心に長期投資への関心が高まっているようです。このことは「人生100年時代」とも関連があるでしょう。年1~2%としても、長い期間になれば大きな金額になります(たとえば40年ならどうなるでしょうか)。

経済学とくに金融論は、「生きているように動く株価」や「リスクに立ち向かう方法」などを研究できる、とても「おもしろい」学問分野です。また同時に、個人や社会の合理的判断に「役立つ」学問分野でもあります。動画を入口に、大学でもっと深く学んでください。

調べてみよう

- 100万円を投資したとして、年2%の収益率なら40年後にいくらになりますか(180万円ではありません)。計算してみましょう(表計算ソフト等を使ってもよいかもしれません)。
- 実際に分散投資を行うには、投資信託(とくにパッシブ型)を活用することが現実的です。さらに、上場投資信託というしくみもあります。これらを調べ、どのように分散投資になるのか考えてみましょう。

推薦図書

- 横山和輝『日本史で学ぶ経済学』(東洋経済新報社、2018年)
- 野口悠紀雄『金融工学、こんなに面白い』(文春新書、2000年)

講師紹介

飯島裕胤(Iijima Hirotsugu)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は金融論、応用ミクロ経済学。

講義題目

ビジネスモデルとしてのSPA

講義担当教員

黄 孝春(社会経営課程 企業戦略コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

従来のアパレル産業においては生地、縫製、卸売、小売などの諸段階がそれぞれ独立経営という分業体制の下、衣料品メーカーで製造された商品は百貨店などで委託販売されるのが主流であり、その場合は多めに仕入れて売れ残りは返品するという商習慣が一般的で、衣料品の在庫と廃棄が長年の課題でした。

これに対し、衣料品の開発・製造から販売までを単一の業者が行うビジネスモデル、すなわち、メーカー機能と小売機能を合体して流通経路を短縮することによって高いマージンを得ながら、価格を安くして販売できる仕組みが実践されています。その先駆者であるアメリカのGAP社の社長はその業態のことをSPA(製造小売)と名付け、日本では、ユニクロがその代表的企業です。

アパレル産業で形成されたSPAというビジネスモデルはほかの産業にも応用され、生活雑貨の良品計画と伝統工芸の中川政七商店がそのよい例です。

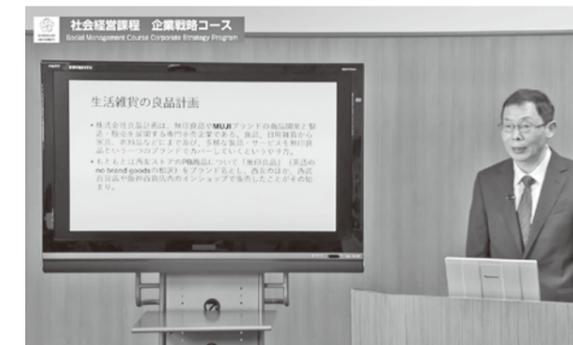
ここでとりあげる三つの日本企業は事業分野が異なりますが、商品企画・生産・物流・販売という4つのプロセスをすべて1つの流れとしてとらえ、いかに効率化しながら顧客の要求にこたえるか、つまりSPAの構築を目指していることに共通項が見られます。直営店がそのための流通チャネルとして選択されています。

直営店の場合、自社製品の販売価格を管理したり、販売データを入手したりすることが容易で、また売り場のイメージの統一や、販売員の管理も行いやすいなど自分たちのコントロールが利くなどのメリットがありますが、一方、自社で供給できる製品で売り場をカバーし、かつ魅力のある品揃えを実現できなければなりません。また初期投資が大きく、流通在庫についても、リスク管理したりしなければならぬなどの課題も考えられます。

直営店で売り切るにはブランドの力が不可欠です。ブランドとは「差異化され、かつ一定の方向性を持ったイメージにより、商品・サービスあるいは会社にプラスをもたらすもの」です。製品・サービスの特徴づけるために名前やマークなどが付与されますが、単なる名前やマークだけでは何も起こりません。

製品・サービスにブランドを付与すること自体は小さな仕掛けですが、マーケティング活動の中にブランドを組み込むことで人々の認識や経験との間に新たな関係を作り出す、つまり顧客とのコミュニケーションが大切なのです。ブランドイメージが顧客の頭の中に形成されますので、そこをいかに意図して作っていけるか。これがブランディングです。

そして商品の差別化、オリジナリティ、自分らしさを顧客に提示するためのツールとしてデザインが活用されています。デザインは奇抜な色や形、配置などによって工夫された図案というイメージが強いです。上述の成功事例が示唆されるように、デザインが経営のコンセプトを商品を通して顧客へ浸透してい



くためのツールとして位置づけられています。今日の経営はこれまで以上にデザインの力を求めています。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

- 日本企業の競争力低下の理由とその対策について次の2つの主張が有力です。
- ・技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか。強い将軍と兵(技術力)を使いこなす軍師、つまりビジネスモデル=利益を生み出す仕組みの再編が不可欠である。
- ・日本にはまだ「いいものをつくれれば売れるはずだ」というものづくり信仰が根強くあるが、いまの商品もあるレベル以上の機能やスペックを備えているから、それを頼りにしていると、いまは選んでもらいたい。どこの企業のものであるか、つまり「ブランドをつくる」ことが大切である。

ビジネスモデルの再構築とブランディング化が日本企業の競争力強化にとって重要です。今回の講義はSPAというビジネスモデルを採用している3つの日本企業を研究してそのビジネスモデルにおけるブランディングの重要性、そしてブランディングにおけるデザイナーの役割を再認識させるのが狙いです。

調べてみよう

- アメリカのGAP、スペインのZARA、スウェーデンのH&MはSPAを採用しています。これらの企業を調べて日本のユニクロとの共通点と相違点を考えてみましょう。
- 津軽塗は伝統工芸産業として指定されていますが、市場需要の縮小、後継者不足などの課題に直面しています。中川政七商店の事例を調べてそのビジネスモデルが津軽塗産業の再生にヒントを与えるかどうか、またその再生に必要なものは何か、考えてみましょう。

推薦図書

- 妹尾堅一郎『技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』(ダイヤモンド社、2010年)
- 日経デザイン『無印良品のデザイン』(日経BP、2015年)
- 中川淳『経営とデザインの幸せな関係』(日経BP、2016年)
- 石井淳蔵ほか『ゼミナール マーケティング入門』(日本経済新聞出版社、2019年)

講師紹介

黄 孝春(Huang Xiaochun)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は現代企業論。

アイデアの考え方

高島 克史(社会経営課程 企業戦略コース)

- ▶ 地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に貢献していくことができるような行動力のある人
- ▶ 少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

はじめに

これまでの学校生活を振り返ってみてください。皆さんは、授業や部活動などで「アイデア」を考えたことはありませんか。アイデアを考えるために、皆さんは何をしたでしょうか。例えば、とにかく思いついたことを紙に書きだしてみたり、何かひらめくまで一点を見つめたり、隣に座っている人と話し合ったり。いずれにしても、アイデアを考えようと一所懸命だったと思います。

本講義では、アイデアの考え方について2つ紹介します。1つはすぐにアイデアをみつけた場合に気を付けること、もう1つはなかなかアイデアがみつからない場合に気を付けることについてみていきましょう。

すぐにアイデアがみつかる場合

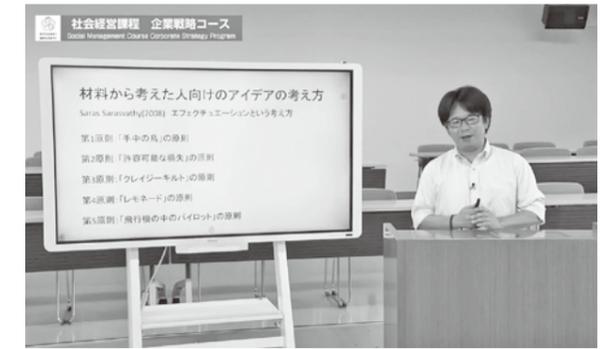
アイデアがすぐにみつかる、なぜか人は誰でもうれしいものです。そのうれしさのあまり、つい見つかったアイデアに飛びついてしまいがちです。容易にアイデアを出すことが出来る場合、気を付けることがあります。それは、「主体的に取り組むことが出来るアイデアだろうか」ということです。もう少しかみ砕いていえば、「自分事として取り組めるアイデアだろうか」と自分に問いかけてほしいということです。

自分事として取り組めないアイデアは、それを見つけたことでどこか気持ちがぎれてしまうことがあります。その結果、最後までモチベーションを維持することが困難です。せっかくの良いアイデアでも最後まで取りくめず実現できなければ、意味がありません。このようにならないために、自分事として最後まで取り組めるアイデアを考えることが大切です。

なかなかアイデアがみつからない場合

なかなかアイデアを出すことができない場合、どうすればいいのでしょうか。こういった場合、人は焦ってしまうものです。何とか見つけようと必死になりがちです。ですが、無理にアイデアを考え出そうとする必要はありません。そういった場合は、「自分は何が好きなのか」「自分は何が得意なのか」を考えてみましょう。具体的には、「自分自身のこれまでの行動を振り返ってみる」「自分の経験や知識」「自分の知人や友人」を考えてみましょう。

「自分自身のこれまでの行動」「自分の経験や知識」を考えると、自分の好みがわかります。私たちは、意識あるいは無意識のうちに自分の好みに合わせて、さまざまな選択をします。自分の行動や知識・経験を振り返ってみると、自分は何を基準にどうやって決めているのか(自分の価値観や信念)を知ることができ



ます。

「自分はだれを知っているのか」は、学校・部活・親族などあなたと知り合いとなっている人とのつながりを意味します。このようなつながりを活用すれば情報を入手し、困ったときに助けを求めることができます。アイデアは1人でひたすら考えるだけでなく、だれかと話をするところからヒントを得て、一緒になって考えることもできます。

このように、初めからアイデアが見つからない場合は、自分自身を分析し、自分がすでに持っている知識や経験と知り合いを確認することからはじめるとよいでしょう。これを通じて、自分には何が出来るのか、何だったら自分事として取り組めるのか考えるところから始めればよいのです。

まとめ

アイデアを考えると、状況・場面・課題に応じて容易に見つかる場合もあれば、そうでない場合もあるでしょう。本講義で紹介したアイデアの考え方を、ぜひ機会があれば試してみてください。最初はうまくいかないかもしれませんが、実践を積んでいくにつれてうまく使い分けられるようになってきます。また、アイデアの考え方はほかにもあります。こういった考え方を学び、習得するために経営学は非常に効果的です。

調べてみよう

- あなたが好きな商品やサービスを1つ選び、それがどのようなアイデアから生まれたのか調べてみてください。
- (仮想問題)あなたは知人5人と一緒に文化祭で飲食店を出すことになりました。あなたならどのような飲食店を出店しますか。文化祭で出店するどころよりも高い売上をあげるためには、どのような工夫が必要なのかもあわせて考えてみてください。

推薦図書

- 永井孝尚『戦略は「1杯のコーヒー」から学べ!』(KADOKAWA/中経出版、2014年)
- 遠山正直『スープで、いきます 商社マンがSoup Stock Tokyoを作る』(新潮社、2006年)

講師紹介

高島克史(Takashima Katsushi)
弘前大学人文社会科学部准教授。専門は経営学。

お片づけの会計学

内藤 周子(社会経営課程 企業戦略コース)

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

家の中のものを整理整頓するというだれもが直面する身近なお片づけという課題を解決するヒントを、会計学の観点から探ります。お片づけは、棚卸という実際に持っているものを把握することからはじまります。棚卸は、所有している物財の種類や数量などを調査することです。スーパーやコンビニなどのお店で、陳列棚に並んでいる商品がどれだけあるのか、店員さんがチェックしている場面を想像するとわかりやすいです。お店では、商品を種類ごとに分類して、どのような状態であるのか、実際の数量と、帳簿上の数量について定期的に照合をします。事実としての実際の数量と、記録としての帳簿の数量が一致すれば問題ないのですが、異なることもあります。帳簿上の数量より、実際の数量のほうが少ないときには原因を探索することになります。原因は、記録の間違いや、記録忘れもあれば、商品の紛失や盗難などもあります。このように事実と記録の照合は、会計学の基本です。

お片づけの記録をとっていない場合には、記憶を頼りに棚卸をするしかありません。実際の数量と、記憶の数量を照合すると、実際の数量の方が多いと思われる。棚卸によって、買い置きの洗剤などの日用品、同じようなデザインや色のお洋服などが使用されていないことに気づけるので棚卸は重要な作業です。

棚卸をしたものは会計学上の資産に該当することが多いです。自分の判断で使用したり、知人に譲ったりできるものが、自分がお片づけをできる範囲です。整理整頓されていないからといって、他人のものを勝手に捨てることはできません。

お片づけの難しいところは、中心的な価値が主観的な価値である点です。ここに、大切な家族から頂いた古い腕時計があるとします。この腕時計は頂きものなので取得の際に現金などを支払っていませんので、取得原価はゼロです。また、ブランドものでもなく、宝石も付いていないことから、市場価格もありません。さらに、故障しているならば時計の機能を果たさないので使用価値もありません。とはいえ、この腕時計は本人にとっての主観的な価値はとても高いものですので、お片づけはなかなかすすみません。

消費期限不明の食品が見つかったならば、どのような意思決定をしますか。このような未来の事象を予測した結果の頭の中の原価を機会原価と言います。機会原価は、意思決定を行う際に用いられる概念で、実際の支出は伴っていない特殊な原価の考え方です。複数の代替案のうち、ある案を採ったときに、他の案を採っていれば得られたはずの最大の利益で測定されます。ここでは、熟成のデッドラインを超えた未知の風味が最大の利益です。この程度の利益であれば、病気を回避して食べないという意思決定が賢明です。

新しいパソコンを購入する際、長く使うなら少し高いパソコンを購入するという意思決定は、会計学の減価償却という取得原価を費用に配分する考え方を基礎とするものといえます。10万円のパソコンを2年間、使用する(取得原価10万円、耐用年数2年、残存価額ゼロ、定額法)場合を考えます。10万円で購入したものを2年間で使用するのですから、単純に割り算をすると1年あたり5万円(10÷2)の投資です。同様に、20万円のパソコンを4年間使用する(取得原価20万円、耐用年数4年、残存価額ゼロ、定額法)場合を考えます。20万円で購入したものを4年間で使用するのですから、単純に割り算をすると1年あた



り5万円(20万円÷4)の投資です。どちらも1年当たり配分される金額(減価償却費)は5万円で同額です。使用する年数に応じて購入するパソコンの価格を決めることは、どれくらいの期間で投資を回収するかという減価償却の考え方といえます。

つまり、購入価格が高かったから処分できないという気持ちは、投資を回収できていないではないか、という疑いから生じるものです。その疑いが合理的かどうかについて、資金の回収を計算して、自分の主観的な価値を照らし合わせると、納得するお片づけができます。ここから、会計学で重要な照合の考え方は、さまざまな場面に応用できることがわかります。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

会計学は、ある特定の経済主体が行った活動を記録・集約した情報を研究の対象としています。企業などの経済主体による経済活動を記録・集約していることから、貨幣(お金)を中心的な情報として取り上げます。経済主体としては、個人や家族、国や企業、非営利組織、その他さまざまな主体が考えられます。会計は、これらのそれぞれの経済主体が持つ目的を遂行するための活動を支えるツールとなります。現代社会には、少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等を背景としたさまざまな問題があります。それらの現代社会が直面する諸課題には、貨幣(お金)の側面から捉えることで解決できる問題もあります。また、会計学の考え方を活用することで解決できる問題もあります。お片づけという身近な課題を解決する手がかりとなる会計学上の考え方を示すことで、社会が直面する諸課題を解決することを理解できることを期待しています。

調べてみよう

- 自分の持ちものを棚卸してみましょう。自分にとって大切なものでも人によってはそうでないこともあるようです。それぞれは、どのような判断をしているのでしょうか。
- 企業などの経済主体が行う活動のうち、貨幣(お金)で写像して測定されないものには、どのようなものがあるでしょうか。それらの活動はどのように表現できるでしょうか。

推薦図書

川本淳・野口昌良・勝尾裕子・山田純平・荒田映子『はじめて出会う会計学(新版)』(有斐閣、2015年)
 齋藤真哉・内藤周子・松原沙織・佐藤恵『財務会計』(新世社、2014年)
 原俊雄・高橋賢編著『テキスト会計学講義 第2版』(中央経済社、2022年)

講師紹介

内藤周子(Naito Shuko)
 弘前大学人文社会科学部准教授。専門は財務会計論。

事業部制組織の成立 ～デュポンの事例から～

林彦櫻(社会経営課程 企業戦略コース)

講義概要

事業部制組織は、戦後多くの大企業に普及された組織形態の一つです。その成立は1920年代のアメリカ大企業に遡ります。事業部制組織がなぜ、どのような経緯で形成されたのか。本講義は、事業部制組織を最初に導入した大企業の一つであるデュポン(Du Pont)の事例から、その成立過程について説明しています。

デュポンは1802年にパートナーシップの火薬会社として創業しました。同社は19世紀前半に発展し、1861～1865年の南北戦争で急成長を遂げ、1872年に火薬工業協会の議決権の過半数を手に入れ、業界の主導権を握る存在になっていきました。さらに、1902年に経営陣の世代交代に伴い、アルフレッド・デュポンは2人の従兄弟とともに会社の経営再建に関わり、デュポンを当時アメリカの火薬業界の三分の二を占める大企業へと発展させました。こうした膨大な経営資源を統合するために、デュポンはさまざまな組織変革を模索していたが、そこで辿り着いたのは集権的な職能部門別組織でした。

しかし、デュポンが築いたこの職能部門別組織は、わずか2年後で根本的な変革に迫られました。その理由は、多角化戦略の進展です。デュポンは、すでに第一次世界大戦前から多角化を進めていましたが、その本格化は、人員と設備が凄まじい勢いで膨らんだ戦時期でした。戦時期にヨーロッパから無煙火薬の大量な注文が殺到し、デュポンは生産規模を一気に拡大しました。戦時期の特需が終わったら、余剰の人員と設備をどう活用するかを考えて、デュポン社は1917年に化学分野を柱として、染料、塗料、ワニス等の製品に多角化戦略の展開を決めました。しかし、この多角化戦略は当初想定したほど、うまく行きませんでした。その理由は、職能部門別組織が性格の異なる製品に事業を展開しているデュポンにはもはや適切な組織形態ではなくなったからです。例えば、生産部門は、性質の異なる製品を対象に、販売、購買、研究開発部門と調整を図らなければならず、調整業務の量が急増しました。また、生産部門の責任者が新製品に対して十分な知識がないし、製品ごとに評価基準、作業手順、方針も異なるため、管理業務が極めて複雑になりました。

こうした問題を解決するために、デュポンは組織の再編を図りました。具体的には、製品系列ごとに事業部を設定し、生産、販売、そして工務、開発などの機能を収容し、さらに各事業部の管理権を事業部長に一任し、社長をはじめとしたトップマネジメントは長期的な観点に立った資源配分などの戦略的な経営問題に専念することになりました。こうした改革で出来上がったのが、「事業部制組織」です。

学問的背景・学ぶ狙い

経営史とは、企業の歴史的な変遷を考察する学問です。本講義は、経営史の重鎮であるアルフレッド・チャンドラーの*Strategy and Structure: Chapters in the History of the American Industrial Enterprise*(日本語訳:『組織は戦略にしたがう』)を中心に、アメリカ大企業における事業部制組織の成立過程について、デュポンの事例より解説しています。チャンドラーは、デュポンだけでなく、ゼネラル・



モーターズ、スタンダード石油ニュージャージー、シアーズ・ローバックの4社を考察しました。この4社とも、ほぼ同じ時期に似たような多角化戦略を取り、似たように事業部制組織へと移行しました。しかも、事業部制への移行は、それぞれ各社内の事情によるもので、模倣ではありませんでした。そこで、チャンドラーは、「組織は戦略に従う」という命題を導きました。経営学を専門とする学生にとって、経営史を勉強する意義の一つとして、このように個々の企業の事例から、企業組織の歴史的な変遷を学ぶことがあげられます。

経営史を学ぶもう一つの意義は、さまざまな企業が異なる時代のコンテキストの中で、どのように意思決定を行い、その意思決定がどのような結果をもたらしたのかについてケース・スタディーを通じて勉強することです。そこで重要なのは、これらの企業を取り巻く歴史的なコンテキストを理解すること、またその上で企業がなぜそのような環境のもとでそうした行動を取ったのかを「事後」の視点ではなく、「事前」の視点で考えることです。このような思考実験を通じて、意思決定の連鎖としての経営活動に対する理解を深め、経営学理論の学習と補完することができると考えられます。

調べてみよう

- ① 今回の講義では言及しなかったゼネラル・モーターズ、スタンダード石油ニュージャージー、シアーズ・ローバックがどのような経緯で事業部制組織を導入したのかについて、『組織は戦略にしたがう』を読み、把握しておきましょう。
- ② ヨーロッパと日本では多く採用された「持株会社組織」について調べ、それと事業部制組織の違いについて考えましょう。

推薦図書

鈴木良隆、米倉誠一郎、安倍悦生(1987)『経営史』有斐閣
 安倍悦生(2010)『経営史(第2版)』日経文庫

講師紹介

林彦櫻(Lin Yanying)
 弘前大学人文社会科学部助教。専門は経済史、経営史。

講義題目

ソーシャル・ビジネスによる社会的課題の解決

講義担当教員

大倉 邦夫(社会経営課程 企業戦略コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

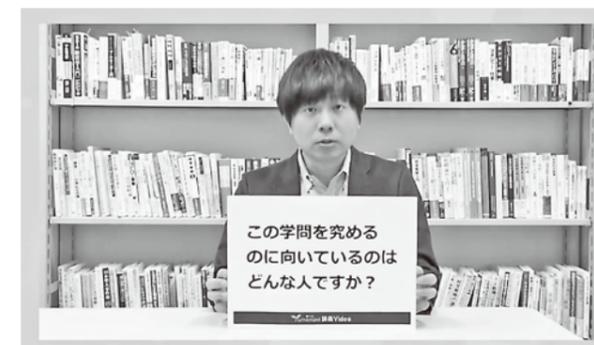
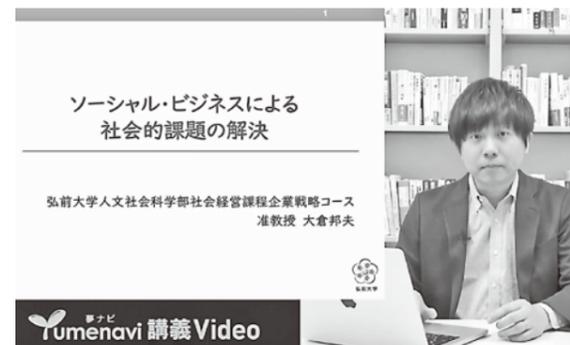
本講義では経営学の基本的な概要を確認した上で、経営学の研究で関心を集めているソーシャル・ビジネスというテーマについて解説します。

経営学とは、企業をはじめとする多様な組織(NPO法人、行政組織含む)を運営し、成功へ導くためにはどうしたら良いのか、こうした疑問を明らかにする学問です。ただし、企業を成功へ導くと言ってもさまざまな問題が複雑に関わってきます。例えば、企業は何かしらの製品やサービスを生み出し、販売していますが、ライバル企業と日々激しい競争を繰り広げています。企業はそうした競争に勝ち抜くための戦略を考えていく必要があります。また、企業は従業員の協力によって運営されています。従業員にとって働きがいのある職場環境が整備されていなければ、従業員は企業のために一生懸命働こうとする意欲は湧いてこないでしょう。このように、企業は収益を生み出し、持続的な経営活動を実現していくにあたり、さまざまな問題に取り組んでいく必要があります。経営学ではこうした企業が直面する問題に対応するため、専門分野が細かくわかれています。先ほど例としてあげたライバル企業との競争という問題については経営学の中でも経営戦略論という分野で研究されています。企業の中で働く人のモチベーションという問題を研究する分野は経営組織論と呼ばれます。

そして、経営学において企業社会論という専門分野が関心を集めています。近年、SDGsというテーマが議論されています。SDGsでは、持続可能な社会を実現するために、政府や行政だけでなく、企業やわれわれ一般市民も地球環境問題や貧困問題、地域の活性化などの社会的課題に取り組むことの必要性が強調されています。その中でも、企業がビジネスの方法を用いて社会的課題に取り組むことをソーシャル・ビジネスと呼びます。ビジネスの方法とありますので、ボランティアなどの無償の活動ではなく、製品やサービスの販売を通して収益をあげつつ、社会的課題の解決に取り組むという点がソーシャル・ビジネスのポイントとなります。企業社会論では、企業はソーシャル・ビジネスにいかに関与することができるのかという問題に注目し、研究を行っています。

それでは、ソーシャル・ビジネスの事例を紹介します。広島県福山市にエコログ・リサイクル・ジャパンという企業があります。この企業は私たちが普段着用している衣服といった繊維製品をリサイクルして、衣服の廃棄物問題の解決に取り組んでいます。同社は繊維産業のさまざまな企業と連携し、古くなった衣服を回収し、それを自社の工場ではリサイクル処理し、ハンガーやエコバッグ、ボタンなどに生まれ変わらせ、販売するというビジネスを展開しています。衣服の廃棄物問題という社会的課題に対して、リサイクルのビジネスという仕組みで取り組んでいるのがエコログ・リサイクル・ジャパンとなります。

ここでは衣服の廃棄物問題という環境問題を例にあげましたが、多くの企業が自社のアイデアを活かしながら社会的課題に取り組むケースが増えています。



講義の学問的背景・学ぶ狙い

ソーシャル・ビジネスに着目する企業社会論が関心を集めてきた背景を確認しておきましょう。従来、社会的課題に対してはその地域の行政などが解決を図ってきましたが、財源的な問題や課題解決のためのアイデア不足などの点から、行政もさまざまな社会的課題に取り組むことについて限界が生じてきました。

また、2000年代に入り、国際社会で「持続可能な社会の実現」というテーマが議論されています。持続可能な社会を実現するにあたり、企業は多様な技術・アイデアをもっていますので、それを社会的課題の解決に結びつけることができれば、今までにはない新しい解決策が生み出されることが期待されています。さらに、近年では企業に出資する投資家が、ソーシャル・ビジネスに取り組んでいる企業を高く評価するようになってきました。その結果、そうした企業に資金が集まりつつあります。

このように、社会的課題の多様化、政府・行政の限界、そしてソーシャル・ビジネスを評価する投資家の存在、という要因から企業によるソーシャル・ビジネスが求められるようになり、企業社会論の研究が盛んに行われるようになりました。

企業社会論ではソーシャル・ビジネスの成功要因を特定しようとする研究が見られます。そのため、企業社会論を学ぶことの意義は、ソーシャル・ビジネスがどのような論理で経営されているのかをきちんと理解することにあります。持続可能な社会を実現するにあたり、企業はどのようにして社会的課題に取り組んだら良いのか、その効果的な方法を検討し、模索していくことが企業社会論の研究の特徴です。企業社会論を学ぼうとする人には、研究の成果を学びつつ、自分自身が企業などで働く際に、それを実践にも活用していこうとする主体的な姿勢を期待しています。

調べてみよう

現在、環境問題や少子高齢化の問題、地域の活性化の問題などさまざまな社会的課題が存在しています。みなさんの身の回りに具体的にどのような社会的課題があるのかを考えてみましょう。

推薦図書

谷本寛治『CSR—企業と社会を考える—』(NTT出版、2006年)

中川功一・佐々木将人・服部泰宏『考える経営学』(有斐閣、2021年)

講師紹介

大倉邦夫(Okura Kunio)

弘前大学人文社会科学部准教授。専門は経営学(企業社会論、経営組織論)。

講義題目

若者の恋愛／性行動

講義担当教員

羽瀨 一代(社会経営課程 地域行動コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

現代社会の重大家族問題

現代の社会問題のなかで、日本が直面している重大な現象は少子高齢化です。この問題は2000年代に入ってよく知られるようになり、さまざまな対策が講じられてきましたが、功を奏した政策はいまだにありません。おおむね、社会学における通説として晩婚化が原因だとされています。日本人は他の先進諸国と異なり、結婚しなければ子どもを作らないという傾向があるからです。さらに結婚が遅れば、第一子出産の年齢も高齢化し、このことに伴って夫婦の子ども数も減少することになります。

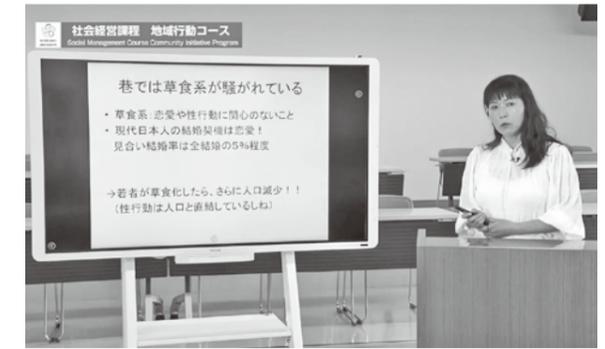
少子化・晩婚化の原因

晩婚化の原因は何でしょうか。多くの社会学者が取り組む問いでもあります。この問いは言い換えると「若者はなぜ結婚しないのか」ということです。国立社会保障・人口問題研究所調査からは、未婚者のうち8割以上が「いずれ結婚するつもり」と答えています。若者は、結婚するつもりがあるのに結婚しない/できないといえるでしょう。

さらに少子化の原因は性行動の消極化からの説明も注目されています。「草食系/草食」という流行語があります。恋愛や性行動に関心のないことを意味しています。性行動が子どもの出生と直結していることは当然ですから、もし現代若者が草食化しているのであれば、今後さらに少子化が進み人口は減ることになるでしょう。全国性行動調査の結果からは、現在の40歳代と比較して10歳代が草食化しているとはいえないのですが、30歳代とそれより低年齢層を比較すると草食化がはじまっているようです。若者の性行動の理由は主として「好きだから」「愛しているから」という結果をあわせると、恋愛と性行動は近年になって消極化していると結論できます。

草食系とライフスタイル・自己評価

このような草食系はどのようなライフスタイルと関連するのでしょうか。人口に膾炙している若者の文化活動や自己評価などと関連はあるのでしょうか。青少年研究会の調査では、おたく文化への志向性と恋愛消極性には関連が見出されました。一方で、スポーツ文化やファッション文化を志向する若者は恋愛に積極的である可能性が示されました。また自己評価との関連も見出されています。「ルックスは人並み以上だ」「学校の勉強は得意なほうだ」と回答した大学生は、恋愛に消極的なようです。いっぽうで、「自分には他の人になく特技・才能がある」「自分は友人関係に恵まれている」と回答した大学生は恋愛に積極的であるといえそうです。もう少し細かくみてみましょう。「メディアや文学の中の登場人物に恋する」「恋愛交際のやり方がわからない」「ふられるのが怖いので恋愛に臆病になる」という項目と逆相関し、「恋人がいないのは恥ずかしい」という項目と正相関している自己評価は「自分は友人関係にめぐまれている」という項目でした。友人関係に対する評価と恋愛とは関連するようです。



まとめ

現代日本の少子高齢化は経済問題や就労問題としてメディアでは報道されることが多いと思われます。実際に経済的な問題もあるでしょう。結婚の前段階として若者に意識される恋愛においても経済が影をさしています。若者の3割は「恋愛にお金がかかる」と思っています。しかし、それ以上に友人関係や文化行動の影響は看過できません。若者の友人関係と恋愛行動、恋愛行動と性行動、性行動と少子化、複雑にからまりあって人口減少に拍車をかけているのではないのでしょうか。

表:自己評価と恋愛に関する意識(○正相関・●逆相関)

	メディアや文学のなかの登場人物に恋する	恋愛交際のやり方がわからない	ふられるのが怖いので恋愛に臆病になる	恋人がいないのは恥ずかしい
自分には他の人になく特技・才能がある	○			
ルックスは人並み以上だ		○		○
学校の勉強は得意なほうだ				○
自分は友人関係にめぐまれている	●	●	●	○

またこれらの分析から、高校生や大学生といった若者の意識や行動に少子高齢化問題の要因があるといっても過言ではないでしょう。若者文化、人間関係、恋愛、性行動といったプライベートな空間における行動や意識と社会の重大問題が関係しているというのであれば、わたしたちはもっと自分たちの接する日常的な文化について知る必要があります。大学でこれらのことを考えてみたい方はぜひ弘前大学人文社会科学部社会経営課程地域行動コースで勉強してみませんか。みなさんの入学を楽しみにお待ちしております。

調べてみよう

○地域社会の人口減少の要因は移動である、という指摘があります。本当にそうでしょうか?国立社会保障・人口問題研究所がおこなった人口移動のデータなどはインターネットで簡単に調べられます。18歳から20歳までの若者の人口移動率は増加しているかどうか、確認してみましょう。

推薦図書

赤川学『少子化問題の社会学』(弘文堂、2018年)

講師紹介

羽瀨一代(Habuchi Ichiyo)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は社会学。

講義題目

ブロード・ストリートのコレラマップ ～“現代の”地図のルーツ～

講義担当教員

増山 篤(社会経営課程 地域行動コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

この講義で話の中心となるのは、「ブロード・ストリートのコレラマップ」として知られる有名な地図です。この「コレラマップ」は、ある意味で“現代の”地図にも大きな影響を与えています。この地図は、どんな地図か、なぜ現代にも影響を与えているのか、具体的にどのような影響を与えたのか。順を追って見ていきましょう。

産業革命によって19世紀のロンドンの人口は膨張し、限られたスペースに多くの人々が住むようになりました。そのため、過密状態に起因し、ひとたび伝染性の強い病気が発生すれば数多くの人命が失われました。そうした病気の一つにコレラがあり、ロンドンの街もこれに度々襲われました。現在は、コレラという病気はコレラ菌によって引き起こされるものであり、口から感染するということが知られています。しかし、当時の医学では、悪臭がコレラの原因であるとする「瘴気説」など、コレラの原因や感染経路については誤った説や理解が罷り通っていました。そうした中でも、ジョン・スノーという医師だけは、自分自身の研究から、コレラの感染の仕組みを正しく推察していたのですが、当時は受け入れられませんでした。

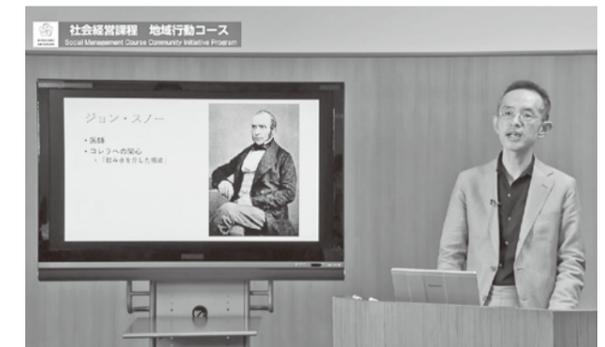
1854年8月終盤から9月上旬にかけ、ソーホー地区のブロード・ストリート近くでコレラが大発生し、多くの人々が命を落とすという痛ましい出来事がありました。このとき、ジョン・スノーは、住民への聞き取り調査を行い、ブロード・ストリートにある井戸から汲まれた飲料水が原因であると特定しました。そして、井戸を閉鎖する措置が採られ、このコレラの大発生は終息に向かいました。

この出来事後、ジョン・スノーは、「ブロード・ストリートのコレラマップ」として知られる有名な地図を作成しています。その地図では、まず、閉鎖された井戸の位置を明確に示し、また、亡くなった方一人につき、その住居に記号を書き加えました。さらに、道路網を考慮した上で、ブロード・ストリートの井戸と隣の井戸との間に境界線を引いた図形を描き加えました。この図形の示す範囲と死者の分布を見比べると、両者の間には一致がみられ、スノーの推察が正しかったことが浮かび上がってきます。

この「コレラマップ」のエピソードは、地図というものを利用することの意義を端的に示しています。つまり、効果的な地図表現や地理的な分析が、現実における問題の原因や解決策を探る上でいかに有用であるか、ということを示しています。

今、私たちの生活において、スマートフォンなどで簡単に閲覧できるようになったこともあり、「地図」というものが、これまでになく身近なものとなっています。非常に大雑把に言うと、「紙」を「コンピュータ」に置き換えた「地図」のことを「地理情報システム」と言います。

実は、1990年代には、民間、公的セクターを問わず、地理情報システムは社会の中で活用され、成果を上げていました。いずれの活用事例においても、地理情報の効果的な可視化と分析の重要性に対する認識が根底にあり、その意味で、スノーの「コレラマップ」は現代にまで影響を与えています。



2021年現在、私たちが住む世界が抱える最大の問題は、新型コロナウイルスの流行と言っても過言ではありません。この世界的な危機に対しても、感染状況をリアルタイムでモニタリングし、それを踏まえて適切な対策を講じるといったように、地理情報システムが活用されることが期待されます。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

講義でも繰り返し強調したように、私たちの暮らす空間の中で起こる問題について、その原因や対策を考える上で、「地図」という形になるようなデータについて、それを可視化したり分析したりすることが効果的です。まずは、そもそもこうした考え方の枠組みがあることを知ってもらいたいと思います。そして、この枠組みが「地理情報システム」という形で具体化していること、地理情報システムを活用して「地図」から社会の問題にアプローチできるということ、を感じてもらえたら幸いです。

調べてみよう

- 描かれる対象、表現技法によって、地図はいくつもの種類に分けられるが、どのような種類のものがあるだろうか？それぞれの特徴は何だろうか？
- 地図は古くから作成されてきたが、時代とともにどのような変遷を経てきたのだろうか？
- 今、「ネットで見られる」地図には、どのようなものがあるだろうか？それらを見ることで、どんなことを新しく知ることができるだろうか？紙の地図と比べてどのような違い・利点があるだろうか？

推薦図書

- スティーヴン・ジョンソン 著、矢野 真千子 訳「感染地図 歴史を変えた未知の病原体」(河出文庫、2017年)
- 若林 芳樹「地図の進化論 地理空間情報と人間の未来」(創元社、2018年)
- 宇根 寛「地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く」(講談社選書メチエ、2021年)

講師紹介

増山篤(Masuyama Atsushi)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は地理情報科学。

講義題目

高学歴化するアフリカ!:ケニアの高卒・大卒女子の生きる道

講義担当教員

白石 壮一郎(社会経営課程 地域行動コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

高学歴化するアフリカと、都市に滞留する若者たち

この四半世紀のあいだで、サハラ砂漠以南のアフリカの国々では高学歴化がすすんでいます。その由来は1990年代なかばに各国で実施された初等教育無償化政策、つまり公立小学校の学費をタダにするという政策です。結果として小学校の就学率は上がり、中学校・高校への進学希望者・進学率、大学・短大への進学希望者も、男女ともに激増したのです。これにともなって生じたのが、農村部から都市部への進学による若年人口移動です。さらに問題なのは、高卒・大卒人口が増えたもののかれの就職先がなく、各都市に就学・就職待機で滞留する若者が増えたことです。

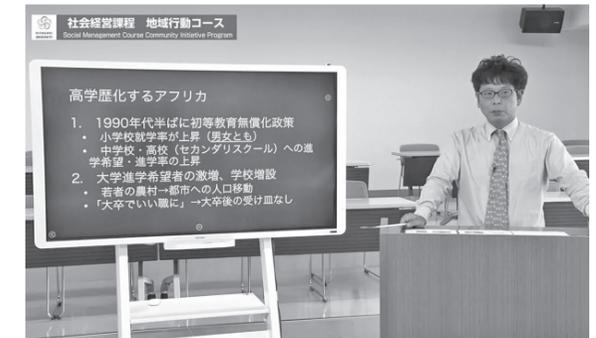
私は20年ほど前からアフリカで現地調査を続けています。ケニア西部の地方都市に15年来の知り合いの20才代後半から30才代の姉妹6人がいて、私はかの女たちのおしゃべりや、かの女たちの活動について回って現場の情報を集め、考え方に触れています。都市の暮らしは農村にはない刺激がありますが、経済的に楽ではありません。農村部出身のその6人姉妹は全員高卒以上の学歴で、大学学部卒も3名、うちひとり大学院卒で、高学歴化の申し子のような姉妹です。ところが6人のうち大卒らしい業種の職についている人は1人しかいません。女子に限らず、大多数の高卒・大卒の若者にとって状況は似たようなもので、学歴をつけるメリットが感じづらい状況だと思うのですが、進学熱はおさまりません。

かの女たちは、自営の小規模な商いで稼いでいます。携帯電話は必須アイテムです。学校時代以来の旧友や近所どうしの知人・友人、同じ教会の知人・友人など数百名の連絡先が携帯に入っていますが、それはそのままかの女たちの商売の顧客リストになります。同じ商いをしている姉妹や友人どうしで仕入れ値の情報交換をしたりもします。また、東アフリカの携帯電話には銀行口座システムがあり、預金や送金ができます。安くない通信料を支払いながら、かの女たちは携帯電話を片時も手放すことはありません。

この携帯電話預金システムを使って、かの女たちはグループ経済活動をしていました。定期的集まって、メンバーが支払った積立金をだれかひとりに配分するのです。動画で説明しているように、これは古くから村の女性たちがおこなってきた「村の銀行」のやり方です。村じゃなくて街なのでふつうに銀行を使えばいいのに、と私は言ったのですが・・・それに対する答えがなんだったのかは動画をみてください。この6人の姉妹は、最近1-2年で、携帯電話の預金システムを使って姉妹で貯金を積み立て、農村部の実家の敷地にレンガ造りの立派な家屋を建てています。伝統的には、娘は結婚して実家を出ていく存在。実家に財産を築くのは息子だったはず。「学歴をつけた私たちのような娘は、新しい女の生き方を示す」というのがかの女たちの言い分です。カッコいい。

フィールドワークで、なにがわかるか

フィールドワークは社会調査の方法のひとつです。ほかにもインタビュー、アンケート、実験などがあり



ます。どれも(1)状況を把握し、(2)意味を理解するということは共通しています。ではフィールドワーク独自の特徴はなにかといえば、やはり人間のリアルな生き方に触れ、現実の具体例から、さまざまなことを考え、人間や社会を理解するためのヒントをもらえることでしょう。その意義は、ものごとを自分の既知の枠組みやパターンに当てはめて単純化しないということにあるかと思います。たとえば、動画での私の話を、「教育が普及しても失業などの課題がある」とか「農村部から若者人口が流出して伝統的なものが失われる」などと要約して理解する人がいそうです。たしかに間違いではないけども、そんなに単純な話じゃなかったと思います。

高卒・大卒で職を得ることができていないかの女たちは、毎日を稼ぐことに追われながらも、自分たちで築いた知人・友人関係のなかに支えられてしっかりと刺激的な都市生活を生きています。またかの女たちは、自分たちは新しい生き方をしていると自負していますが、かの女たちは活動のなかに女性たちの伝統的な知恵(村の銀行)を応用していました。このように、現実はずねに、いっけん矛盾するように思える要素どうしが絡み合っすすんでいきます。フィールドワークで接する現実には圧倒的な迫力ですから、ものごとを理解するさい自分の頭のなかにある既知の枠組みやパターンはいったん横に置いて、目の前のごとを理解する楽しさがあります。つまり、フィールドワークを通して自分のものごとを理解する枠組みやパターンをバージョンアップできるのです。

調べてみよう

○ケニア共和国の首都ナイロビなど、アフリカの都市がかかえる現代の問題にはどのようなものがあるでしょうか。

○文化人類学の調査方法である「参与観察」とは、どのような特徴や長所をもっているのでしょうか。

推薦図書

白石壮一郎・椎野若菜 編『社会問題と出会う(100万人のフィールドワーカーシリーズ 7)』(古今書院、2017年)

太田至『交渉に生を賭ける:東アフリカ牧畜民の生活世界(生態人類学は挑む Monograph1)』(京都大学出版会、2021年)

講師紹介

白石壮一郎(Shiraishi Soichiro)

弘前大学人文社会科学部准教授。専門は地域社会学、人類学、地域研究。

講義題目

社会心理学から見る権力

講義担当教員

日比野 愛子(社会経営課程 地域行動コース)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

○社会心理学とはどのような学問か。

心理学といえば個人の心を知るための学問だというイメージが強いかもしれませんが、しかしながら、社会心理学は「個人に内蔵された心」という見方をとらず、人間の意識や行動が状況の力によって大きな影響を受ける点に注目します。様々な社会問題を考える際にも、特定の個人の中に原因を探るのではなく、その場の状況の力や問題が生じた集団全体の性質から問題を理解しようとしています。

○社会心理学からみる権力

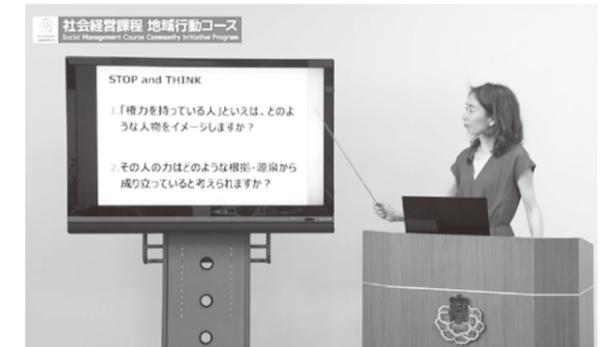
恋愛、犯罪、リーダーシップなど、社会心理学は人間の意識や行動にかかわるさまざまなテーマを扱ってきました。権力はその中でも重要なテーマの1つです。権力は企業の代表者や国の指導者といった特別な人物が発揮するものでまだ高校生の自分にとっては関係のないもの、と思われるかもしれませんが、しかし、日常生活の場面でも、なぜかある人が別の人の言うことを聞いてしまう(支配されてしまう)ような経験に触れたことがあるのではないのでしょうか。権力とはどのような対人関係の中にも生じうるのです。

○関係性の中で生まれる権力

そもそも権力とは他者の行動をコントロールする能力のことです。社会心理学では、そうした能力(の強さ)が、他者がその人を必要とする程度に応じて決まってくる点に目を向けます。例えば上司と部下の関係を上げると、上司だけが権力を持つわけではありません。上司は、部下に尊敬されたい気持ちを持つ、職場で一緒に目標達成する必要がある、などの観点から部下を必要としています。部下が発する言葉や振る舞いも(ある程度は)上司の行動を左右するので、実は部下の側にも権力があるといえるのです。また、社会心理学は権力が集団の中の役割と連動している点にも目を向けます。ある集団で何らかの強い立場を持ち他者を支配している人物がいたとしても、もしその人物が集団から外れて別の場面・別の役割に置かれたならば、権力は消えることになります。

○権力の腐敗

権力を持つ人は傲慢になり、攻撃性を強めてしまうことが指摘されてきました。社会心理学では実験を通じてこの謎に迫り、権力の保持が人々の行動を変えてしまう結果を示しています。例えばある実験では、人々を異なるグループに分け、片方のグループでは権力をより強く意識させたところ、その人々は自分だけが分かるような視野の狭いコミュニケーションをとってしまうことが分かりました。権力は関係性の中で成り立つにもかかわらず、その力が自分の資産だと勘違いすると、自分に向けた意識が高まり、全体を眺める視点が欠けてしまうようです。しかしながら、視野が狭まらなければ、人は権力を持ちながらもその力を他者や集団のために正しく使うことができるという可能性も示されています。



講義の学問的背景・学ぶ狙い

社会心理学の成り立ちには、第二次世界大戦で世界が経験した悲劇が大きくかかわっています。戦争では残虐な行動が起こりますが、善良であるはずの普通の人々がなぜそうした行為をしてしまうのか。こうした問題に対して、実験という手法を中心に様々な研究が行われてきました。周りの人々の意見から影響を受けてしまう同調、権力者の指示に追随してしまう服従などの古典的実験は有名です。

一方、社会心理学では、人々の行動をただ外から眺めるのではなく、現実の問題解決を導き出す姿勢も非常に重視します。この講義では触れませんでした。現場でともに働き、現場の人々と一緒に問題を解決していく実践的学問の「アクション・リサーチ」は社会心理学から誕生したものです。アクション・リサーチは、誰もが変革の第一歩を踏み出せるような理論(ものの見方)やツール(道具)を生み出しており、組織学習や地域の活性化の場面で注目されています。

社会心理学やアクション・リサーチを学ぶことは、身近で生じる対人関係や、地域の活動、政治や社会のうねりを深く理解することにつながります。私たちは普段個人に原因を求めるといった考え方に慣れていますが、そうした理解はしばしば現状維持につながってしまいます。状況の力や集団の性質を学ぶことで、現実的な流れの変化を生み出すヒントを得ることができるのです。

調べてみよう

○権力と関係する話題として、対人心理学では人に影響を与える力である「社会的勢力」の研究も進んでいます。社会的勢力の定義や種類を調べてみましょう。

推薦図書

日比野愛子・渡部幹・石井敬子「つながれない社会」(ナカニシヤ出版、2014年)

岡本浩一「権威主義の正体」(PHP新書、2004年)

講師紹介

日比野愛子(Hibino Aiko)

弘前大学人文社会科学部教授。弘前大学特定教育研究センター・地域未来創生センター長。

専門は社会心理学。

人類学者はなぜ異文化をめざすのか

曾我 亨 (社会経営課程 地域行動コース)

少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

講義概要

なぜ異文化を学ぶのでしょうか。人類学者は、自分たち自身のことを知るために異文化をめざします。自分を知るためには鏡が必要です。この講義では、異文化のなかに身を置き、違和感という鏡を使って自分たちの社会を理解する方法を説明します。

他者を鏡に、自分の姿を知る

「人の振りみて我が振りなおせ」という格言があります。他人の嫌な言動や態度をみたら、それを自分に置きかえて省みようという意味ですが、人類学もこれに似た考え方をします。自分の振る舞いを、客観視することはとても難しく、だからこそ異文化に生きる人々と一緒に暮らし、驚きや違和感を手がかりに、私たち自身のことを知ろうとするのです。また逆に、私たち自身のことを手がかりに、彼らの振る舞いを理解しようともします。哲学が本を片手に考えをめぐらせるのとは対照的に、人類学はフィールドに出かけて、身体で体験しながら人間について考える学問です。

自信に満ちた牧畜民

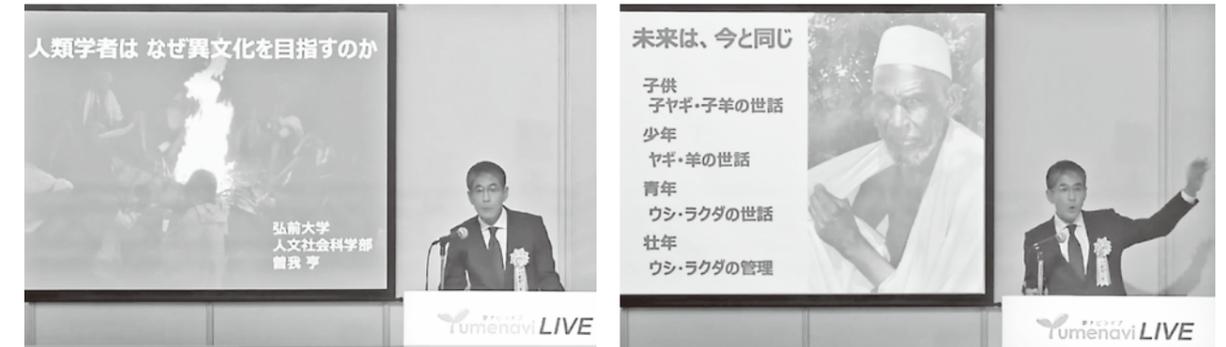
あなたは自信に満ちて生活していますか？ 北ケニアの牧畜民と暮らすと、彼らがとても自信に満ちていることがわかります。一方で学生に「自分はダメだと思ったことがあるか？」と聞くと、ほとんどの学生が手を挙げます。ということは、この感覚はあなただけが感じる個人的な現象ではないということです。むしろ日本の社会こそが、あなたにそう思わせているのだと考えられます。

牧畜民と私たちの社会を比べることで、自己肯定的な生き方を実現するヒントがみえてきます。充実した今を生きる牧畜民たちは、どうして自己肯定的な生き方ができるのでしょうか。フィールドワークによって、彼らは家畜とともに生きており、「子どものうちは羊の放牧を、青年になると牛の放牧をする」というように、自分の未来を予測できる社会に生きていくことがわかります。一方、私たちが暮らす現代の社会は、「未来を現在よりもよくするために、人は変わり続けなければならない」という価値観をもとに作られており、人は常に「このままではダメだ」と変化を求められます。

近年、私たちの社会も大きく変わり、未来の不確実性も高まってきました。不確実な社会を生きるにはどうしたらよいのでしょうか。地域の人たちの考えを拾いあげ、充実した「今」を生きる術を考えることも、人類学の大切な役割です。

講義の学問的背景・学ぶ狙い

西欧の人々は、大航海時代に、世界各地にはさまざまな文化や人々が暮らしていることを知りました。この異文化を理解しようという意志が、人類学の始まりです。



当初、人類学は西欧こそが人類文化の頂点に位置し、最も優れていると考えていました。そして世界各地の文化や人々を劣ったものとして序列化しようとした。しかし、一見、奇妙に見える異文化にも、その文化のなかで果たす役割や意味があることがわかってきました。異文化にも合理的な精神が宿っていることが理解されるにつれて、次第に各地の文化に序列をつけることへの反省が生まれてきました。

今では、異文化を学ぶことの意味は、自分たちの文化を改善したり、自分たちの文化をより深く理解したりするためのヒントを得る手段であると理解されています。一例としてこの講義では、アフリカの牧畜民が何でも自力でやれてしまうジェネラリストであるのに対し、日本などの近代社会では、皆、教育を受けて何かの専門家(スペシャリスト)になることや、専門外のことについては他の専門家の力を借りる必要があり、協力することを前提とした社会を作っていることを説明しています。このように異文化と自分たちの社会を比較することで、自分たちの社会の特徴をくっきりと捉えることが可能になるのです。

専門家どうしが協力する社会は、とても効率的です。けれども、過度に専門性が高くなり、他のことには手出しできない社会になってしまうと、新しい課題が見つかった時に、誰も課題に取り組みなくなってしまいます。この講義では、私たちのなかにも潜んでいるジェネラリスト性を発揮することの重要性を説いています。例えば、人口減少がすすむ社会の未来をどう作るか、少子化をどのように克服するかといった新しい課題は、専門家まかせにするのではなく、皆が自分事として考え行動する必要があるのではないのでしょうか。

調べてみよう

自分が、将来、なりたい専門家(職業)をイメージし、他のどんな専門家と共に仕事をするのか調べてみましょう。また、他の専門家と共に仕事をする上で、どのようなコミュニケーション能力が必要になるかも考えてみましょう。例えばコミュニケーション能力というと、話をするのが得意であるとか、社交的であるとか、誰とでも仲良くできるなどの能力と考えがちですが、他の専門家と一緒に仕事をする時には、全く別のことが必要となります。どのような能力が必要でしょうか。

推薦図書

- 松村圭一郎「はみだしの人類学 ともに生きる方法」(NHK出版、2020年)
- 石井美保「めぐりながれるもの人類学」(青土社、2019年)

講師紹介

曾我 亨 (Soga Toru)
弘前大学人文社会科学部教授。専門は人類学および地域研究。

講義題目

北日本で考古学を学ぼう ～北日本考古学研究センター～

講義担当教員

上條 信彦(文化創生課程 文化資源学コース、センター長)

講義に該当するアドミッション・ポリシー

国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

センター概要

【北日本の大地に埋もれた豊かな文化資源の多角的研究を通して地域の活力を養い、世界に向け新たな文化の発信を行う】

考古学は過去の人の生活や文化、社会を主に地中に埋まっているものから明らかにしていく学問です。地中に埋まっているものを掘り出し、どこから、どのような状態で発見されたかを記録していく作業を発掘調査といいます。発掘や整理などのフィールド調査を成功させるためには、チームワークが最も重要です。チームワークのなかで忍耐力や協働力、プロジェクトの推進力が鍛えられます。これまで、北海道、北東北の縄文時代から弥生時代を中心に数多くの遺跡を調査してきました。これによって世界的に注目される縄文文化の実態と、次の時代である弥生時代への変化システムについて、各地域への適応を視点に戦略的に解明しています。

弘前大学の位置する北日本は世界遺産に登録された縄文遺跡群をはじめ、多様な文化財が地下に良好な状態で残された地域として知られています。この地に眠る埋蔵文化財は、白神山地に代表される豊かな自然とともに地域の貴重な資源であり、それらの価値を明らかにするとともに、適切に保護し将来に伝えることは、地域の知の拠点である弘前大学の責務といえるでしょう。

弘前大学は前身の旧制弘前高等学校時代に亀ヶ岡遺跡の発掘調査を実施するなど、長い考古学研究の歴史があります。縄文の遺跡の宝庫である地の利を活かした教育・研究・社会貢献を実現するため、平成14年にこの地域の特徴的な縄文文化のひとつである「亀ヶ岡文化」を研究するためにセンターを設置し、研究を推進、その成果を生かした地域貢献を図ってきました。

平成26年度には、これまでの研究を活かして北日本考古学研究センターが発足しました。現在、考古学分野では国内有数の教育機関として、また学内資源を有効に利用した北日本の学際的研究拠点として広く認知されています。また、センターが有する遺跡から出土する有機質遺物の分析と保存のための様々な機器類とそれを操作する人的資源は、北日本随一であり、資料分析や保存処理に関して学外からの受託・共同研究も積極的に実施しています。学内においても、センターは本学における学域融合型研究を牽引してきました。

センターの活動

考古学の情報はマスコミでも取り上げられることが多いので、一見口マンを感じる学問かもしれませんが、しかし、モノに秘められている文化を理解するとなると、何も語らない「モノ」ですから、我々がモノに語りかけなくてはなりません。学問の現場は、ひたすらモノとことばの間で格闘しています。実は、このモノに語りかける技術を学ぶことができるのが、「学び」の醍醐味なのです。そのためには、多様な方法がある



のも考古学の特徴です。

センターでは文化資源学コースと連動して、発掘はもちろん、理化学的な分析や実験なども行います。「過去のことを明らかにするためには手段を選ばない」といってもいいでしょう。当の私も縄文時代の食料加工が研究テーマですので、野山でドングリを拾い採集量を計算し、土器で煮てその付着物を分析します。また考古学のモノを観察する視点



は、世界共通ですし、現在にも応用できます。よってグローバルな視野が得られるのも特徴です。実際、ゼミを巣立った学生の進路も、研究テーマが多彩であるのと同様、様々です。多くは地域の文化財保護活用に関心を持ち行政機関や博物館職員などに進みますが、なかには土偶や石棒の卒業研究を書いた学生が卒業後、海外の大学院で精神文化や文化遺産をテーマに活躍している人がいます。さらにモノの観察眼が認められ警察の鑑識に配属された人もいます。

もうひとつの醍醐味は文化財を通して、その価値を知り、文化「財」の保護・育成する能力を養うことができることです。本学は実習や研修旅行を通じて、学生一人一人が、文化財に直接触れ、調査や研究ができる特色があります。実習室だけでなく展示室や分析室があり、直接、土器や石器などに触れ、実践的に調査方法や研究方法を学びます。例えば、発掘品の洗浄や注記(ラベリング)、拓本、実測図の作成、写真撮影、トレース(鉛筆で書いた実測図にイラストレータなどのグラフィックソフトを使って線をなぞること)、版組へと移っていきます。このような一貫した調査技術の学びにとどまらず、学芸員資格の取得とともに保存処理など自然科学的分析を含めた多彩な学びを総合的に深めることができます。以上の体制は全国の大学でも珍しく、北海道・東北地区では唯一といっても過言ではないでしょう。

文化財は必ずしも貴重なものばかりではなく、ヒトの「日常」についてモノを通じて学ぶ学問です。したがって研究をするうちに「自分をとりまく社会とは、」という問いにもつながっていきます。多彩な研究環境を持った本学で学んだことが、将来生かされることを期待しています。

講師紹介

上條信彦(Kamijo Nobuhiko)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は日本考古学・先史学・文化財学。

地域未来創生センター ～「地域と共に歩む」センターをめざして～

李 永俊(社会経営過程 経済法律コース、前センター長)

弘前大学特定プロジェクト教育研究センター・地域未来創生センター(Innovative Regional Research Center)は、地域の諸課題を真に理解し、その解決策を見出すために、2014年(平成26)4月に旧人文学部(現人文社会科学部)内に設置されました。青森県は全国的にみて、少子高齢化・過疎化が早いスピードで進行している地域の一つであります。域内からの人口減少により、地域の産業・経済状況の悪化、さらには地域の生活基盤の構造的変化が将来的に想定される中で、地域が直面することになる諸課題の解決にむけて、地域の要請をきちんとふまえた先見性のある研究と教育活動が強く求められています。

そのような要請に応えるために、地域未来創生センターは、文化資源・地域文化活用部門、地域づくり総合研究部門、震災復興・災害研究部門の3部門を設け、弘前市及び青森県全域とその周辺地域の諸問題に関する研究に取り組んでいます。研究においては、文化・社会・経済を一つの総体として、総合的な研究対象として捉え、地域の自治体・企業・民間団体等との緊密な連携のもとに組織的に解決策を模索しています。地域の文化資源を「発掘」し、学術的に評価するとともに、これらの資源を積極的に有効活用することによって、地域の再発見、地域の活性化に貢献することを目指します。また、当センターが先頭に立って、地域を志向する教育を進め、地域課題の解決に関心をもつ人材の育成に努めています。

2014年(平成26)度から2019年(令和元年)度までの6年間は、人口減少問題に焦点を当て、「人口減少社会の中で持続可能な地域づくり」をテーマにさまざまな研究活動を行ってきました。ここで、その間の調査研究活動の一部を紹介します。2015年に実施した「中南津軽・東青地域住民の仕事と生活に関する調査」では、この地域へ移住してきた住民たちの生活実態と移住の理由、移住を可能にした条件、きっかけなどを、住民アンケート調査を通して分析を行いました。分析の結果、移住の理由、条件、きっかけが地域によって異なっているという事実と地元への回帰が両地域に共通した移住の最大の理由であることを明らかにしました。その調査結果は、弘前市と青森市に提供され、両地域の有効な移住促進策を考える基礎資料として活用されています。また、2019年には本学在学中の学生の地元意識と就業に関する意識について調査し、若年者の県外流出を抑制し、地元定着を促進するための対策を講ずるべく、その基礎資料として利用するために実施しました。分析の結果、大学入学以前の小中高までの地元志向教育や経験がどのように入学時の就業希望地に影響を与えているのか、また、大学での地元志向教育の教育効果については今後の継続調査の分析を通して明らかにする予定です。

文化資源・地域文化活用部門では、「東奥義塾高校所蔵旧弘前藩藩校稽古館資料調査」が継続的に行われています。東奥義塾高等学校と連携した藩校資料調査報告会は、2017年度から2019年度までに3回開催し、報告書3冊(通算6冊)が刊行されました。報告会の参加者は回を追うごとに増え、地域への浸透が目に見える形をとってきました。2017年12月にはwebサイトも公開されました。また、深浦町円覚寺の古典籍調査は、地元高校生、地域住民を含め実施し、若い世代を巻き込む調査の方法が注目されています。報告書を2冊刊行し、報告会が2回開催されました。修験道の聖教が大量に発見され、中世に遡る資料も発見されたことから、全国的に注目されています。



地域づくり総合研究部門では、裁判員制度を基軸とした地域司法の諸課題に関する教育・研究プロジェクト(2017)(2018)(2019)を実施しました。青森県は、法学部を有する大学がなく、法学の研究者がきわめて少ない状況にあります。そのような状況の中で、青森県が抱える法的な課題を、本学の法学の研究者を中心に様々な分野の研究者が多角的に検討することには、大きな意義があると思われます。自然栽培法がもたらす付加価値について(2017)(2018)(2019)の研究では、農業と福祉をつなぐ農福連携にさらに自然栽培法が加わることで、新たな展開が行われています。本研究は自然栽培法を通じた農福連携のポテンシャルに関心を持ち、マネジメントの側面からその調査研究を行っています。自然栽培とその学術的成果に関するフォーラムを開催し、農業従事者・関係者と成果を共有し、青森県を中心とするアグリビジネスを下支えしていくことを目的としています。

震災復興・災害研究部門では、本学のボランティアセンターと連携して「東日本大震災からの地域復興を考えるー北リアス・岩手県九戸郡野田村のQOLを重視した災害復興研究」などを行ってきました。また、地域レジリエンスを高めるための移動環境のあり方に関する調査・研究(2018)も実施しています。地域にはモビリティ(移動能力)の異なるさまざまな人々が暮らしています。五体満足で十分なモビリティを持つ人々もいる一方、車椅子や電動カートを日常的に利用せざるを得ず、低いモビリティに甘んじている人々もいます。また、身体的な障害やハンディキャップを抱えなくとも、怪我等の理由により、一時的にモビリティに欠く人もいます。本調査・研究では、モビリティの異なるさまざまな人が存在することを考慮した上で、移動環境に関して、その将来的な改善を念頭に置いた評価方法を検討・提案することを目的に調査研究を進めています。

その他、当センターでは、アウトリーチ活動の一環として、地域未来創生塾、地域未来創生センターフォーラム、地域未来政策研究会などを地域内外の様々な団体と連携し、行っています。当センターの研究活動や成果の詳細については、当センターのホームページ及び当センターが発刊している『地域未来創生センタージャーナル』をご参照ください。

このような研究、教育、地域貢献の取り組みをもって、「地域と共に歩む」センターとして、地域の魅力・活力を高めるために貢献していきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

講師紹介

李永俊(Young-Jun LEE)

弘前大学人文社会科学部教授。専門は労働経済学。



弘前大学人文社会科学部
オンラインキャンパス ガイド
編集委員

.....
泉谷安規/伊藤健/大倉邦夫/金目哲郎/白石壮一郎/高島克史/新永悠人
関根達人/荷見守義(○)/花田真一/羽瀨一代(◎)

◎:入試広報副委員長、○:WG座長